

佐賀県文化財調査報告書第145集

佐賀県農業基盤整備事業に係る
文化財調査報告書 18

2000年3月

佐賀県教育委員会

佐賀県農業基盤整備事業に係る
文化財調査報告書 18

2000年3月

佐賀県教育委員会

は じ め に

この報告書は、佐賀県農業基盤整備事業等の施工に先立ち実施した、埋蔵文化財の確認調査の結果をまとめたものです。

本県には埋蔵文化財が多数存在しており、県教育委員会では、これらの貴重な文化財の保護と農業等を営む方々の生活基盤を整備する事業との調整を図るため、文化財の確認調査と記録の保存を進めております。

今回、平成11年度農業基盤整備事業等施工予定地区について文化財確認調査を行った結果、旧石器時代から近世にわたる各時代の遺跡が確認され、ここにその成果の一端を紹介するものです。

本書が、文化財を県民の共有財産として大切に保存していくための資料として役立てていただけたら幸いです。

この調査にあたって、文化庁、九州農政局、県農林部、各市町村教育委員会・土地改良担当課並びに地元関係各位の御理解と御協力に対し、心からお礼申し上げます。

平成12年3月31日

佐賀県教育委員会

教育長 川久保 善明

例 言

1. 本書は、国庫補助を受け平成10年度に確認調査を実施した佐賀県農業基盤整備事業に伴う文化財調査報告書である。
2. 調査は、市町村教育委員会の協力を得て、佐賀県教育委員会が行った。
3. トレンチ（試掘溝）位置図作成、遺構の実測、写真撮影は調査員が行った。
4. 遺物の整理・製図・報告書作成作業は、佐賀県文化財課（神埼事務所）で行った。
 - ・遺物整理……………田中ハルミ
 - ・図面整理・遺物実測……………江島美恵子・上瀧 光子・山口美佐子・一番ヶ瀬富士子
 - ・製図……………三好 文子
5. 本書の執筆は下記の分担で行った。
 - I、II、IV……………古川 直樹（佐賀県教育委員会）
 - III-1……………太田 睦（中原町教育委員会）
 - III-2・3……………中野 充（佐賀市教育委員会）
 - III-4……………楠本 正士（ “ ” ）
 - III-5……………三代 俊行（ “ ” ）
 - III-6……………岩永 雅彦（多久市教育委員会）
 - III-7・8……………内田 孔明（唐津市教育委員会）
6. 本書に用いた方位は、原則として座標北とし、磁北を用いた場合はその旨を記した。
7. 挿図中の■は遺構・遺物が確認されたトレンチ、□は遺構・遺物が確認できなかったトレンチである。
8. 本書II平成10年度文化財確認調査の内容は、調査員から提出された調査結果報告をもとに編集者がまとめている。IIの報告及びIIIの各担当者の原稿のうち「土壌」や「……跡」の表記等については統一を図り、また一部表現を変えたところがある。これらの文責は編集者に帰す。
9. 本書の編集は、古川が行った。

目 次

I. 調査に至る経過	1
1. 平成11年度農業基盤整備事業等に伴う文化財確認調査	1
(1) 農業基盤整備事業等に係る協議	1
(2) 文化財確認調査	1
(3) 農業基盤整備事業等と文化財保護に関する協議	1
2. 調査組織	2
II. 平成10年度文化財確認調査の概要	11
1. 佐賀東部地区の調査	11
(1) 中原町	12
(2) 東脊振村	12
(3) 神埼町	18
2. 佐賀西部地区の調査	18
(1) 佐賀市	18
(2) その他の地区	27
3. 佐賀南部地区の調査	31
(1) 有明町	32
(2) その他の地区	32
4. 佐賀北部地区の調査	35
(1) 北波多村	35
(2) その他の地区	35
5. 佐賀上場地区の調査	40
(1) 唐津市	40

Ⅲ. 平成10年度発掘調査の概要	52
1. 鷹取山遺跡	52
2. 森田遺跡	54
3. 上九郎遺跡	56
4. 若宮遺跡1区	58
5. 若宮遺跡3・4区	60
6. ハツ溝遺跡	62
7. 菅牟田西山遺跡	64
8. 枝去木分校入口遺跡	66
Ⅳ. まとめ	68
Ⅴ. 資料	70
1. 農林業基盤整備事業等に係る文化財調査の進め方	70
2. 確認調査実施要領（平成10年度）	71
3. 平成11年度農林業基盤整備事業等に係る文化財調査一覧表（第2回協議会資料）	73

挿図目次

図1	平成10年度農業基盤整備事業等に伴う文化財調査地区位置図	5～6
図2	佐賀東部地区周辺地形図	11
図3	中原町林道九千部山横断線トレンチ配置図	13
図4	中原町中原西部線揚水機場トレンチ配置図	14
図5	東脊振村佐賀東部地区県営かんがい排水事業トレンチ配置図	15
図6	神埼町日出来地区トレンチ配置図①	16
図7	神埼町日出来地区トレンチ配置図②	17
図8	佐賀西部地区周辺地形図①	19
図9	佐賀西部地区周辺地形図②	20
図10	佐賀市金立東部地区トレンチ配置図	21
図11	佐賀市兵庫北部地区トレンチ配置図①	22
図12	佐賀市兵庫北部地区トレンチ配置図②	23
図13	佐賀市鳥越溜池周辺地形図	25
図14	佐賀市鳥越溜池レーダー探査・電気探査結果図	26
図15	佐賀市幹線水路徳永線トレンチ配置図	28
図16	幹線水路徳永線トレンチ土層断面図	29
図17	佐賀南部地区周辺地形図	31
図18	有明町深浦地区調査地点位置図	33
図19	有明町深浦地区仏龕実測図	34
図20	佐賀北部地区周辺地形図①	36
図21	佐賀北部地区周辺地形図②	37
図22	北波多村岸岳地区トレンチ配置図①	38
図23	北波多村岸岳地区トレンチ配置図②	39
図24	佐賀上場地区周辺地形図①	41
図25	佐賀上場地区周辺地形図②	42
図26	唐津市東山地区トレンチ配置図①	43
図27	唐津市東山地区トレンチ配置図②	44
図28	唐津市東山地区トレンチ配置図③	45
図29	唐津市唐津東部地区〔桜崎地区〕トレンチ配置図	47
図30	唐津市唐津東部地区〔川頭地区〕トレンチ配置図	48
図31	唐津市唐津東部地区〔外原地区〕トレンチ配置図	49

図32	鷹取山遺跡位置図	52
図33	森田遺跡位置図	54
図34	上九郎遺跡位置図	56
図35	若宮遺跡1区位置図	58
図36	若宮遺跡3・4区位置図	60
図37	ハッ溝遺跡位置図	62
図38	菅牟田西山遺跡位置図	64
図39	枝去木分校入口遺跡位置図	66

写真図版目次

図版1	仏龕を彫り込んだ安山岩露頭	32
図版2	仏龕近景	32
図版3	鷹取山遺跡	53
図版4	森田遺跡	55
図版5	上九郎遺跡	57
図版6	若宮遺跡1区	59
図版7	若宮遺跡3・4区	61
図版8	ハッ溝遺跡	63
図版9	菅牟田西山遺跡	65
図版10	枝去木分校入口遺跡	67

表目次

表1	農業基盤整備事業等施工予定地内文化財確認調査一覧表（平成10年度）	7～8
表2	平成10年度発掘調査遺跡一覧表	9～10

I. 調査に至る経過

1. 平成11年度農業基盤整備事業等に伴う文化財確認調査

(1) 農業基盤整備事業等に係る協議

県農林部と教育委員会が昭和53年4月に締結し、昭和59年4月に一部改正した「農業基盤整備事業に係る埋蔵文化財の保護に関する確認事項」に基づいて、平成10年9月に平成11年度農業基盤整備事業施工計画について事業担当部局から文化財保護担当部局への協議が求められた。平成11年度工事地区のうち予備調査（分布・試掘・確認調査）の対象となった地区は、佐賀東部地区（鳥栖市・中原町・東脊振村・脊振村・上峰町・神埼町・基山町・三瀬村）15.7ha、佐賀西部地区（佐賀市・川副町・大和町・三日月町・多久市・富士町・小城町）127.4ha、佐賀南部地区（鹿島市・武雄市・太良町・大町町・塩田町・山内町・北方町・嬉野町・有明町）121.6ha、佐賀北部地区（伊万里市・浜玉町・七山村・巖木町・相知町・北波多村・西有田町）114.4ha、佐賀上場地区（唐津市・鎮西町・玄海町）51.7haの合計430.8haである。施工主体は県農林部、市町村所管の団体営事業等に区分される。また、九州農政局筑後川下流農業水利事務所の筑後川下流用水事業に伴う協議（佐賀市・大和町・三日月町）、九州農政局佐賀中部農地防災事業所の農業用水関係事業に伴う協議（佐賀市・川副町・牛津町・三日月町）もなされた。

(2) 文化財確認調査

協議した施工計画について現地踏査などの結果をもとに検討を行い、文化財確認調査が必要と認められた地区（表1）を決定した。これを受け、当該市町村の教育委員会・土地改良担当課、県農林部・農村農地整備局との第1回目の「平成11年度農業基盤整備事業に係る文化財の保護に関する協議会」を県教育委員会が主催して、10月15日に開催し、文化財確認調査の時期などの円滑な実施について協議した。

文化財確認調査は、原則として稲刈り終了から麦の作付けまでの期間（10月下旬～12月上旬）までの間に行ったが、地区によっては上物の状況等により年度末までずれ込む箇所もあった。

確認調査は原則として、2×2mのトレンチ（試掘溝）を20m間隔で基盤目状に設定し、埋蔵文化財の有無、性格、範囲などを調査した。

(3) 農業基盤整備事業等と文化財保護に関する協議

確認調査によって明らかになった事業施工予定地区内の遺跡の広がり、佐賀東部地区35,900㎡、佐賀西部地区22,600㎡、佐賀南部地区250㎡、佐賀北部地区60,000㎡、佐賀上場地区19,100㎡、の計137,850㎡であった。

この結果をもとに関係市町村教育委員会が主体となって個別協議が行われ、12月16日に第2回目の合同会議を開催し、平成11年度の事業計画と埋蔵文化財保護との調整がなされた。この会議において平成11年度工事施工分の遺跡の保存・発掘調査面積の調整が整い、工法等の設計変更により保存するようになった遺跡を除く23,350㎡については平成11年度に発掘調査を実施して記録保存を図ることにしたが、佐賀市の金立東部地区については発掘調査実施地区を平成12年度に振り分け、唐津市の川頭地区・鶏ノ尾地区については、平成12年度に実施する措置を行った。

平成10年度に市町村教育委員会が実施した発掘調査（表2）は、基本的には、平成9年度に同様な過程で確認調査を実施し、農業基盤整備事業等担当部局との協議を経て、記録保存で対応することになったものである。

2. 調査組織

平成10年度

調査主体

佐賀県教育委員会

総括

局長 佛坂 勝男 県文化財課長

次長 園田 義孝 県文化財副課長 大橋 康二 県文化財副課長 東中川 忠美 県文化財副課長

庶務

津野 建夫 県文化課庶務係長 吉村 俊也 県文化課庶務係主事

相川 ミエ子 県文化課庶務係主査 毎熊 近 県文化課庶務係主事（7月～）

（久保 信行 県文化課庶務係主査 ～7月）

調査

調査総括	西田 和己 県文化財課管理・指導班企画調整主査	原田 保則 武雄市教育委員会
	徳富 則久 県文化財課管理・指導班企画調整主査	松本 隆昌 大和町教育委員会
調査主任	松尾 法博 県文化財課管理・指導班主査	宗像 剛 富士町教育委員会
調査員	樋口 秀信 県文化財課管理・指導班主査	桑原 幸則 神埼町教育委員会
	市川 浩文 県文化財課管理・指導班文化財保護主事	久保 伸洋 東脊振村教育委員会
	古川 直樹 県文化財課管理・指導班指導主事	太田 睦 中原町教育委員会
	福田 義彦 佐賀市教育委員会	野田 桂子 中原町教育委員会
	古賀 章彦 佐賀市教育委員会	永田 稲男 三日月町教育委員会
	中野 充 佐賀市教育委員会	中尾 修二 浜玉町教育委員会
	内田 孔明 唐津市教育委員会	陣内 康光 北波多村教育委員会
	岩永 雅彦 多久市教育委員会	宮崎 光明 西有田町教育委員会
	船井 向洋 伊万里市教育委員会	

調査協力

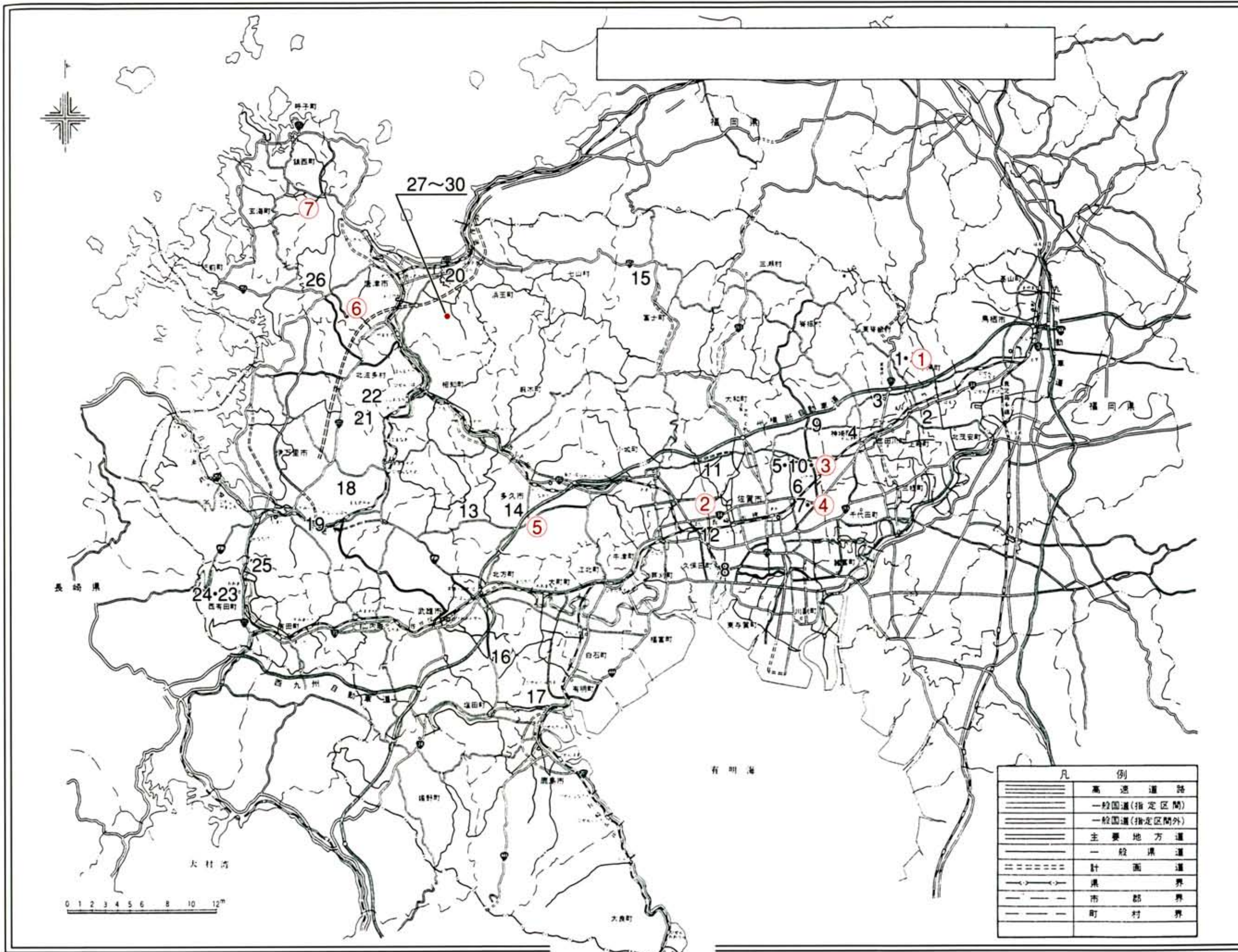
佐賀市教育委員会	大和町教育委員会	中原町教育委員会
唐津市教育委員会	富士町教育委員会	上峰町教育委員会
鳥栖市教育委員会	神埼町教育委員会	小城町教育委員会
多久市教育委員会	東脊振村教育委員会	三日月町教育委員会
伊万里市教育委員会	脊振村教育委員会	牛津町教育委員会
武雄市教育委員会	三瀬村教育委員会	浜玉町教育委員会
川副町教育委員会	基山町教育委員会	七山村教育委員会

巖木町教育委員会
相知町教育委員会
北波多村教育委員会
玄海町教育委員会

西有田町教育委員会
山内町教育委員会
北方町教育委員会
大町町教育委員会

有明町教育委員会
太良町教育委員会
塩田町教育委員会
嬉野町教育委員会

九州農政局筑後川下流農業水利事務所
九州農政局佐賀中部農地防災事業所
佐賀中部農林事務所
鳥栖農林事務所
武雄農林事務所
鹿島農林事務所
伊万里農林事務所
唐津農林事務所
各市町村土地改良担当課
地元各位



確 認 区 画	佐賀東部地区	
	1.	中原町(九千部山横断線)
	2.	中原町(三養基地区)
	3.	東脊振村(佐賀東部地区)
	4.	神埼町(日出来地区)
	佐賀西部地区	
	5.	佐賀市(金立東部地区)
	6.	～(兵庫北部地区)
	7.	～(兵庫西部地区)
	8.	～(嘉瀬排水機場)
	9.	～(鳥越溜池)
	10.	～(幹線水路徳水線)
	11.	大和町(佐賀西部導水)
	12.	三日月町(排水機場)
	13.	多久市(駄地区)
14.	～(西山地区)	
15.	富士町(中敷地区)	
佐賀南部地区	佐賀南部地区	
	16.	武雄市(南瀬崎地区)
	17.	有明町(深浦地区)
	佐賀北部地区	
	18.	伊万里市(松浦二期地区)
佐賀北部地区	佐賀北部地区	
	19.	～(大川内地区)
	20.	浜玉町(ひれふり地区)
	21.	北波多村町(志気前田地区)
	22.	～(岸岳地区)
	23.	西有田町(西有田西部地区)
	24.	～(伊古石地区)
25.	～(二ノ瀬地区)	
佐賀上場地区	佐賀上場地区	
	26.	唐津市(東山地区)
	27.	～(桜崎地区)
	28.	～(川頭地区)
	29.	～(外原地区)
30.	～(鶏/尾地区)	
発 掘 調 査 遺 跡	凡 例	
		高速道路
		一般国道(指定区間)
		一般国道(指定区間外)
		主要地方道
		一般県道
		計画道
	県界	
	市界	
	町界	
	①	粟取山遺跡(中原町)
	②	森田遺跡(佐賀市)
	③	上九郎遺跡(～)
	④	若宮遺跡(～)
	⑤	八ノ瀧遺跡(多久市)
	⑥	菅牟田西山遺跡(唐津市)
	⑦	枝去木分校入口遺跡(～)

図1 平成10年度 農業基盤整備事業等に伴う文化財調査地区位置図

表1 農業基盤整備事業等施工予定地区内文化財確認調査一覧表（平成10年度）

地区	市町村名	工事地区名	所在地	確認調査対象面積(ha)	調査結果	担当者	備考
佐賀東部	中原町	九千部山横断	中原町大字原古賀字丸山	1.2	平安時代の祭祀遺構・中世山城	太田・野田	鷹取山城跡
		三養基地区	中原町大字原古賀字七本柳	0.1	弥生時代の集落跡	太田・野田	西寒水七本柳遺跡
	東脊振村	佐賀東部地区	東脊振村大字大曲字西前田	0.5	弥生時代～中世の集落跡	久保	西前田遺跡
	神埼町	日出来地区	神埼町大字日出来	0.7	弥生時代の墳墓群	桑原	利田柳遺跡
佐賀西部	佐賀市	金立東部地区	佐賀市金立町大字薬師丸	49.3	弥生時代～中世の集落跡	中野	石土井遺跡
		兵庫北部地区	佐賀市兵庫町大字若宮	37.0	弥生時代～中世の集落跡	松尾・武谷・古川	
		兵庫西部地区	佐賀市兵庫町大字淵	5.2	遺跡は確認されなかった	中野	
		嘉瀬排水機場	佐賀市嘉瀬町大字十五	0.77	遺跡は確認されなかった	中野	
		鳥越溜池	佐賀市久保泉町大字川久保	1.0	古代の山城	福田	国史跡 帯隈山神籠石
		幹線水路徳永線	佐賀市金立町大字金立	1.0	近世の水路	松尾・古川	
	大和町	佐賀西部導水	大和町大字久留間・東山田	0.42	遺跡は確認されなかった	松本	吉富遺跡
	三日月町	排水機場	三日月町大字金田	0.3	遺跡は確認されなかった	永田	
	多久市	駄地地区	多久市西多久町駄地	5.0	遺跡は確認されなかった	松尾	
		西山地区	多久市多久町	0.05	遺跡は確認されなかった	岩永	
富士町	中敷地区	富士町大字上無津呂	0.8	遺跡は確認されなかった	宗像		
佐賀南部	武雄市	南橋崎地区	武雄市橋町大字大日	0.3	遺跡は確認されなかった	原田	
	有明町	深浦地区	有明町大字深浦	5.8	近世の仏龕	松尾・古川	
佐賀北部	伊万里市	松浦Ⅱ期地区	伊万里市松浦町大字山形	3.6	遺跡は確認されなかった	船井	萱ノ谷窯跡
		大川内地区	伊万里市大坪町大字上原	0.9	遺跡は確認されなかった	船井	上原遺跡
	浜玉町	ひれふり地区	浜玉町大字横田下	32.0	遺跡は確認されなかった	中尾	
	北波多村	志気前田地区	北波多村大字志気	5.0	遺跡は確認されなかった	陣内	志気前田遺跡
		岸岳地区	北波多村大字岸山	30.0	中世の山城	陣内	県史跡 岸岳城跡
	西有田町	西有田西部地区	西有田町曲川丙	20.4	遺跡は確認されなかった	宮崎	
		伊古石地区	西有田町大木乙	3.0	遺跡は確認されなかった	宮崎	
二ノ瀬地区		西有田町山谷甲	16.0	遺跡は確認されなかった	宮崎		
佐賀上場	唐津市	東山地区	唐津市東山	0.4	旧石器～縄文時代の包含層	内田	東山Ⅰ遺跡
		桜崎地区	唐津市半田字桜崎	4.0	弥生時代・中世の墓群	内田	桜崎遺跡
		川頭地区	唐津市半田字川頭	0.6	時期不明の土墳墓	内田	
		外原地区	唐津市半田字外原	2.0	旧石器～縄文時代の包含層・中世の炭窯	内田	外原遺跡
		鶏ノ尾地区	唐津市半田字鶏ノ尾	9.0	古墳時代の古墳・近世の土墳墓	内田	

表2 平成10年度発掘調査遺跡一覧表

市町村名	遺跡名	略号	遺跡の所在地	調査面積	調査主体者	調査担当者	遺跡の内容	事業名
中原町	鷹取山遺跡	TTY	中原町大字原古賀	820㎡	中原町教育委員会	太田・野田	古代祭祀、中世山城	九千部山横断線
佐賀市	森田遺跡	MRT	佐賀市鍋島町大字森田	1,000㎡	佐賀市教育委員会	中野	弥生時代墳墓、中世後半～近世集落跡	県営圃場整備
	上九郎遺跡	KKR	佐賀市金立町大字薬師丸	300㎡			不明	県営圃場整備
	若宮遺跡1区	WKM	佐賀市兵庫町大字若宮	1,250㎡		楠本	中世後半～近世前半集落跡	県営圃場整備
	若宮遺跡3・4区	WKM	佐賀市兵庫町大字若宮	2,000㎡		三代	中世集落跡	国営幹線水路
多久市	八ッ溝遺跡	YTM	多久市多久町字八ッ溝他	2,500㎡	多久市教育委員会	岩永	古墳時代集落跡	県営圃場整備
唐津市	菅牟田西山遺跡	SMN	唐津市菅牟田字西山	5,936㎡	唐津市教育委員会	内田	旧石器時代～弥生時代包含層	県営畑地帯総合整備
	枝去木分校入口遺跡	EBI	唐津市枝去木字仮又	170㎡			旧石器時代包含層	県営畑地帯総合整備

Ⅱ. 平成10年度文化財確認調査の概要

1. 佐賀東部地区の調査



図2 佐賀東部地区周辺地形図(1:50,000)

1. 中原町(九千部山横断線) 3. 東脊振村(佐賀東部地区) ①鷹取山遺跡
2. " (三養基地区) 4. 神埼町(日出来地区)

(1) 中原町（広域基幹林道九千部山横断線・三養基地区）

広域基幹林道九千部山横断線（図3）開設事業に伴う今年度の確認調査は、中原町大字原古賀字丸山で、昨年遺跡を確認した尾根上の平坦部について、遺跡の広がり等を確認するための追加調査として実施した。本調査地区は中原町の北側にある鷹取山の中腹に位置し、標高200m～250mである。大半が急傾斜の斜面や深い谷となっているが、所々平坦部をもつ尾根では、昨年度の調査で、石列や土塁等の遺構が確認されている。

今回の調査では、斜面上からテラス、土壇、ピット、焼土等の遺構が新たに検出された。テラスは2箇所を確認されたが、斜面全体を削るのではなく部分的に削っている。土壇は炭化物を含んでおり、検出された焼土と関係があると考えられる。ピットは建物が立つかどうかは不明である。

遺物は須恵器、土師器が出土した。時期は8世紀から9世紀のもので、テラス上から多く出土している。

今回の調査結果からも、この地点に8世紀から9世紀の遺跡が存在することが確認されたが、遺跡の性格を祭祀に関係するものと決定づけるだけの資料は得られなかった。

三養基地区（図4）は、県営灌漑排水事業（中原西部線）に伴い、中原町大字原古賀字七本柳の650㎡を対象に確認調査を実施した。

調査対象地区は南に延びる台地の縁辺部に位置し、標高約15mである。地山は白灰色から青灰色を呈する粘質土で、湧水層に近いと考えられる。調査地点の北側には、弥生時代～古墳時代及び中世の集落跡である西寒水七本柳遺跡が存在する。

調査は、掘削機及び人力により掘削を行い、2トレンチ内の東側から4m程の円形を呈する土壇を検出した。堆積土が砂及び砂利であり、溜池状であったと考えられる。遺物は、弥生土器の破片が数点出土した。

今回の調査では、弥生時代のものと思われる溜池状の遺構が確認されたが、調査範囲が狭小であったこともあり、本地点の北側に広がる弥生時代の集落と関係がある可能性が考えられるが断定するまでには至らない。

(2) 東脊振村（佐賀東部地区）

佐賀東部地区（図5）は、県営灌漑排水事業（東脊振線）に伴い、東脊振村大字大曲字西前田の約1,100㎡を対象に確認調査を実施した。

調査対象地は、脊振山地の南麓裾部に形成されている三津段丘南部の南端の段丘崖（比高約2m）に近い場所に位置する、弥生時代～古墳時代の集落跡を中心とした西前田遺跡の北東部にあたり、標高は24～25mで南に緩く傾斜している。現状は農道で、周辺の水田面とは比高が0.5～2mある。周辺の遺跡としては、北北西500mに縄文時代～鎌倉時代集落跡と弥生時代の墓地である夕ヶ里遺跡、西北西800mに弥生時代の墓地である三津永田遺跡がある。

調査は、昭和54年度の農業基盤整備事業に伴う試掘調査により遺跡の分布範囲として把握された部分を中心に3×10mのトレンチを9箇所設定し、掘削機により掘削を行った。

1・2トレンチでは深度が深く、明確に確認できなかったが、集落跡周辺の遺物包含層（遺物密度は低い）と考えられる。3トレンチでは弥生時代後期の竪穴住居や小穴の埋土と考えられる遺物包含層（遺物密度は高く、完形に近いと思われる土器も確認。）を全面に確認した。4・5トレンチでは明確な遺構は確認できなかったが、3～5トレンチの周辺には昭和54年度の調査結果と考え合わせると、弥生時代後期を中心とした非常に遺物密度の高い遺構が分布していると考えられる。6トレンチでは、中世（鎌倉時代？）の大きな溝跡（下層に砂層があり、流水があったと考えられる。）の一部を地山まで掘り下げたと見られる。7～9トレンチは6トレンチと堆

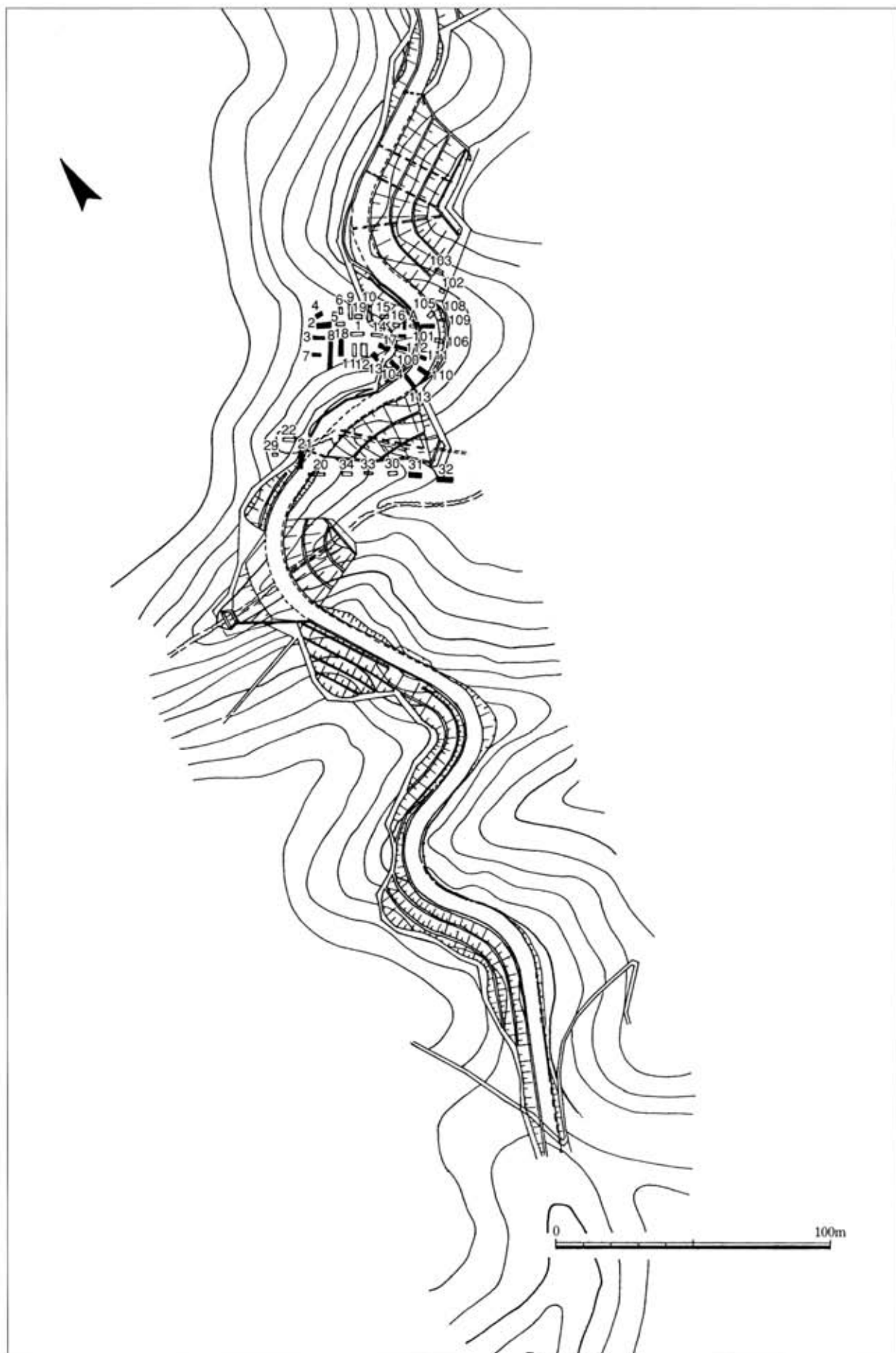


図3 中原町林道九千部山横断線トレンチ配置図

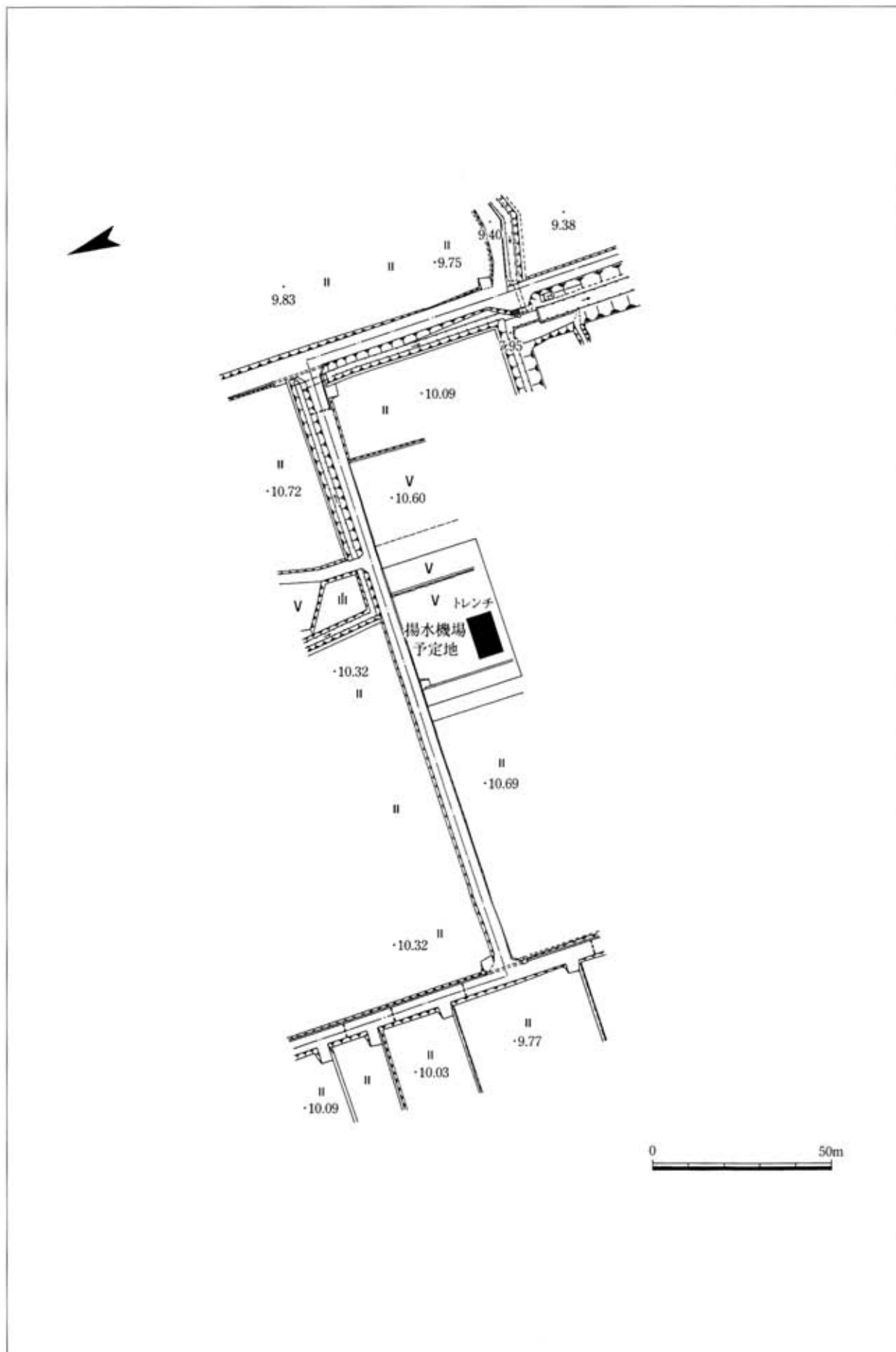


図4 中原町中原西部線揚水機場トレンチ配置図

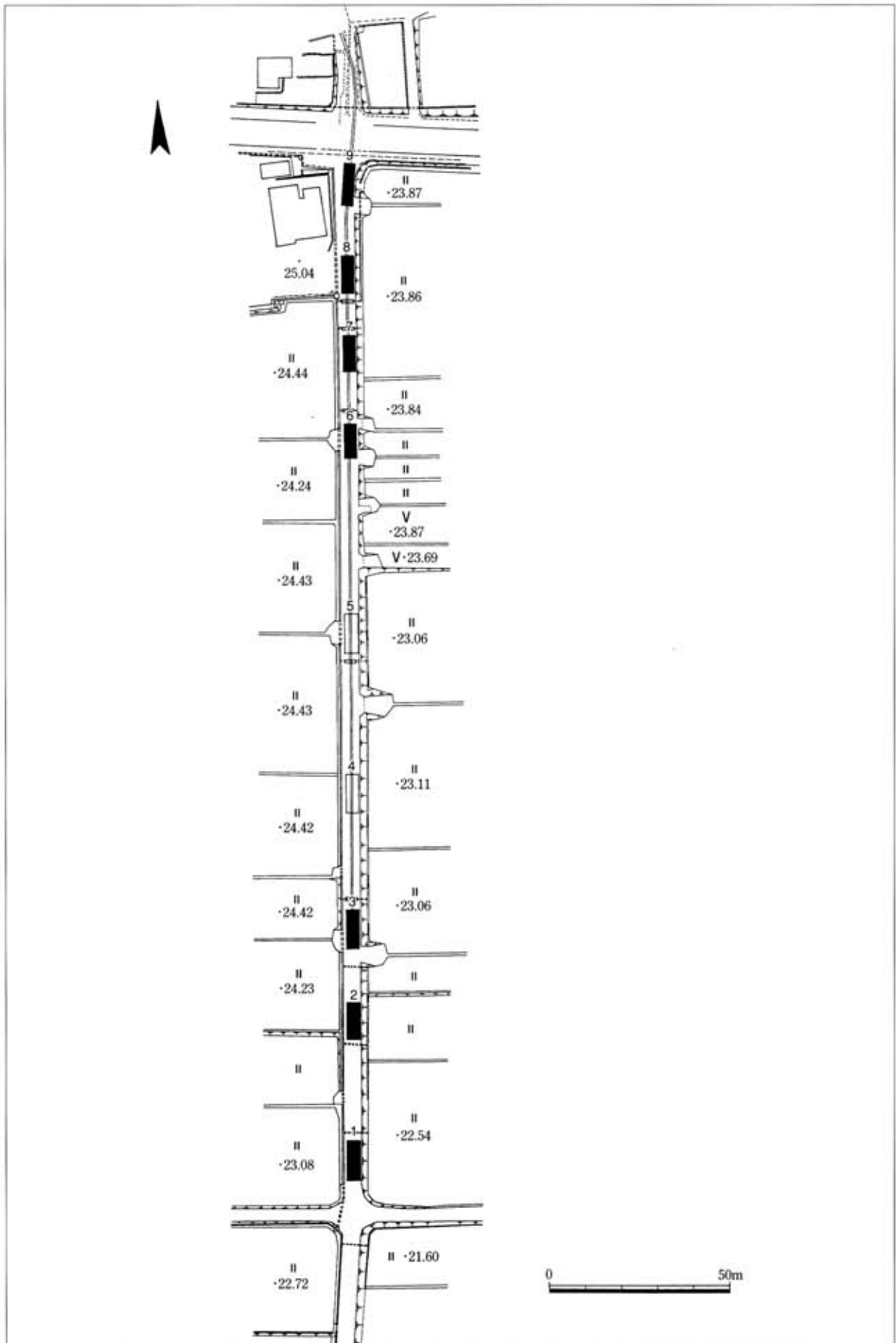


図5 東脊振村佐賀東部地区県営かんがい排水事業トレンチ配置図

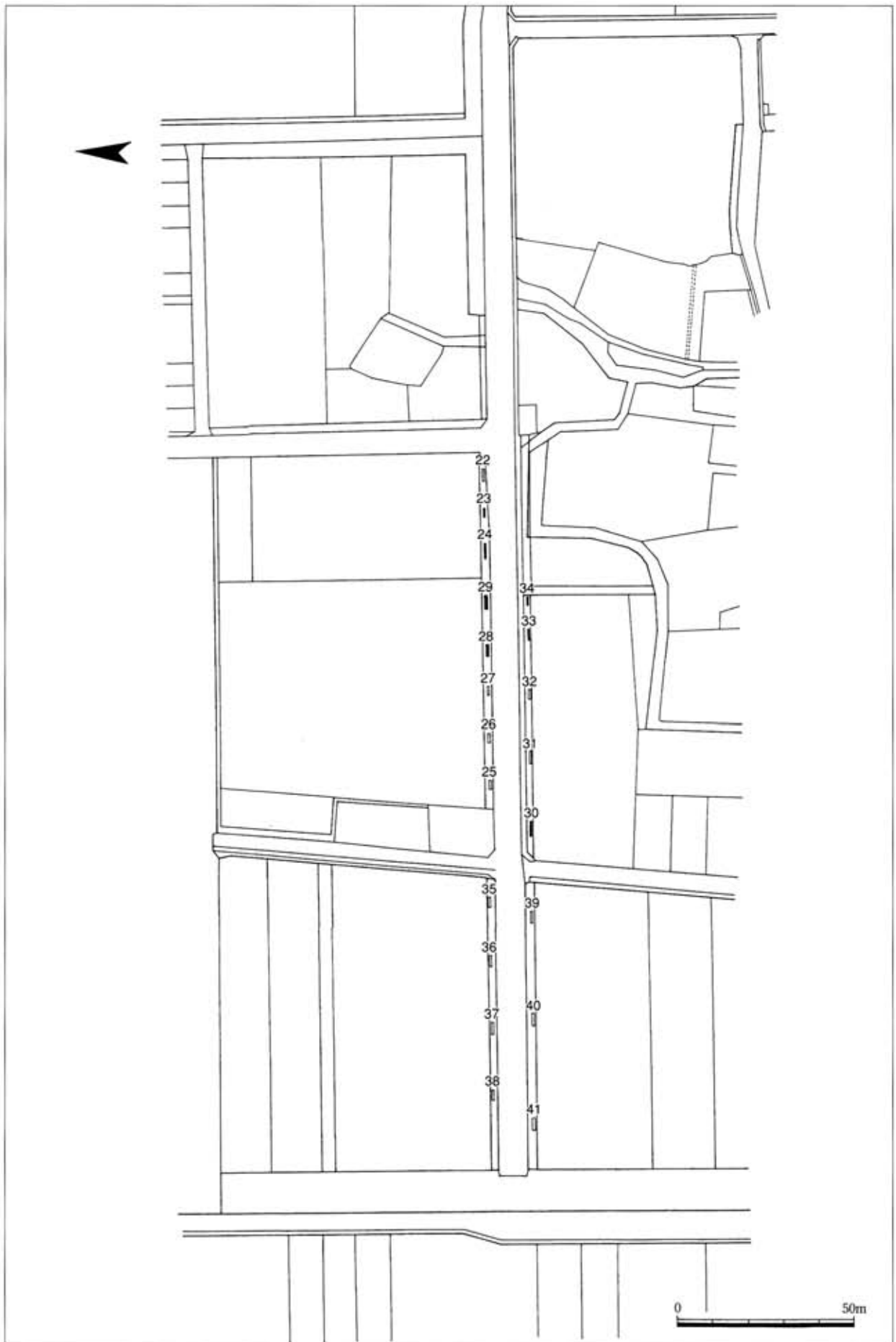


図6 神埼町日出来地区トレンチ配置図①

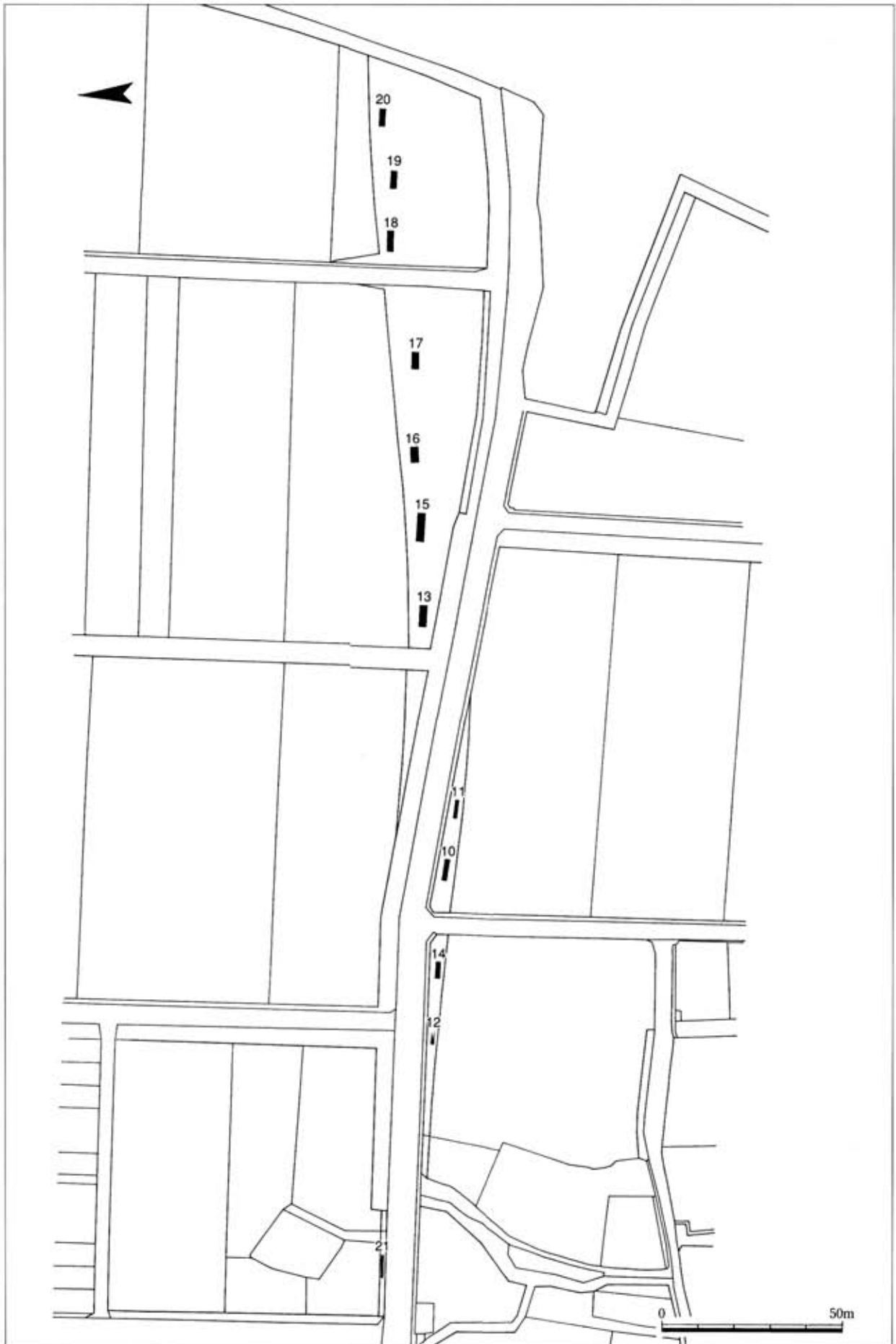


図7 神埼町日出来地区トレンチ配置図②

積状態がよく似ており、地形の状況などから同じ時期の大きな溝跡若しくは流路と考えられる。

遺物は、1・2・5トレンチより若干の弥生土器の細片、3・4トレンチでは弥生土器の完形に近いものも含めた破片、6トレンチでは中世（鎌倉時代？）の青磁器・陶器・土師器片、7・8トレンチでは土器の細片、9トレンチでは弥生土器片が、それぞれ出土した。

（3）神埼町（日出来地区）

日出来地区（図6・7）は、ふるさと農道緊急整備事業に伴い、神埼町大字日出来の約10,700㎡を対象に確認調査を実施した。

調査対象地は、町のほぼ中央にあたり、町の中央部を南北に延びる城原川の西側にひろがる標高7～8mの水田地帯に位置する。また、圃場整備に伴う発掘調査により弥生時代の甕棺墓や掘建柱建物等が多数検出された、弥生時代～古墳時代の集落・墓地である利田柳遺跡の範囲に一部が含まれている。周辺には、利田黒木遺跡、川寄遺跡群・伏部遺跡群・野田遺跡群等の弥生時代～中世の遺跡が濃密に分布している。

東西に細長い調査区のため、便宜的にA～L地点とし、幅0.8～2m・長さ1.5～8.0mのトレンチを41箇所設定し、掘削機及び人力による調査を行った。

調査の結果、A～D地点では遺構や遺物は確認されず、E～L地点において遺構が検出された。検出遺構は弥生時代の甕棺墓・土壇・溝・小穴、中世の溝、包含層であり、出土遺物は、弥生土器の甕・壺等、土師器の椀・杯等、黒曜石である。

2. 佐賀西部地区の調査

（1）佐賀市（金立東部地区・兵庫北部地区・兵庫西部地区・嘉瀬排水機場・鳥越溜池・幹線水路徳永線）

金立東部地区（図10）は、平成10年度県営圃場整備事業に伴い、佐賀市金立町大字薬師丸の約54.2haを対象に確認調査を実施した。

調査対象地は、脊振山系から南へ派生する低位段丘の先端部に位置し、標高4～5mである。周辺には、村徳永遺跡、薬師森遺跡、上九郎遺跡、下和泉一本椎遺跡など多くの遺跡が存在し、弥生早期～室町時代の遺構及び遺物が確認されている。

調査は、対象地に任意に137箇所のトレンチを設定し、トレンチ配置図、土層断面略図を作成、トレンチの状況を写真撮影した。

64・73・76・78・79・82・83～85・87・88・90・92～94・98・102・121～124・128・135・136トレンチで遺構を検出しており、検出遺構は溝・土壇・小穴である。遺物は、弥生早期及び弥生中期の甕の口縁部片、平安末から中世の土師器小皿の破片が少量出土した。

今回の調査では、調査対象地区内の石土井地区で、計172,959㎡の遺跡の広がりを確認し、周知の埋蔵文化財包蔵地外の部分については、石土井遺跡の範囲を拡大することで周知化した。

兵庫北部地区（図11・12）は、平成10年度県営圃場整備事業に伴い、佐賀市兵庫町大字若宮の約37haを対象に確認調査を実施した。

調査対象地は、市道伊賀屋線の北側で巨勢川の東側、JR長崎本線の北側の標高3～4mの水田に位置し、若宮遺跡の北側にあたる。なお、国営幹線水路徳永線が圃場整備地区の中央を縦断する予定である。周辺では、発



図8 佐賀西部地区周辺地形図①(1:50,000)

1. 三日月町(排水機場) 3. 佐賀市(金立東部地区) 5. 佐賀市(兵庫北部地区) 7. 佐賀市(鳥越溜池) ②上九郎遺跡
 2. 大和町(佐賀西部導水) 4. " (幹線水路徳永線) 6. " (兵庫西部地区) ①森田遺跡 ③若宮遺跡

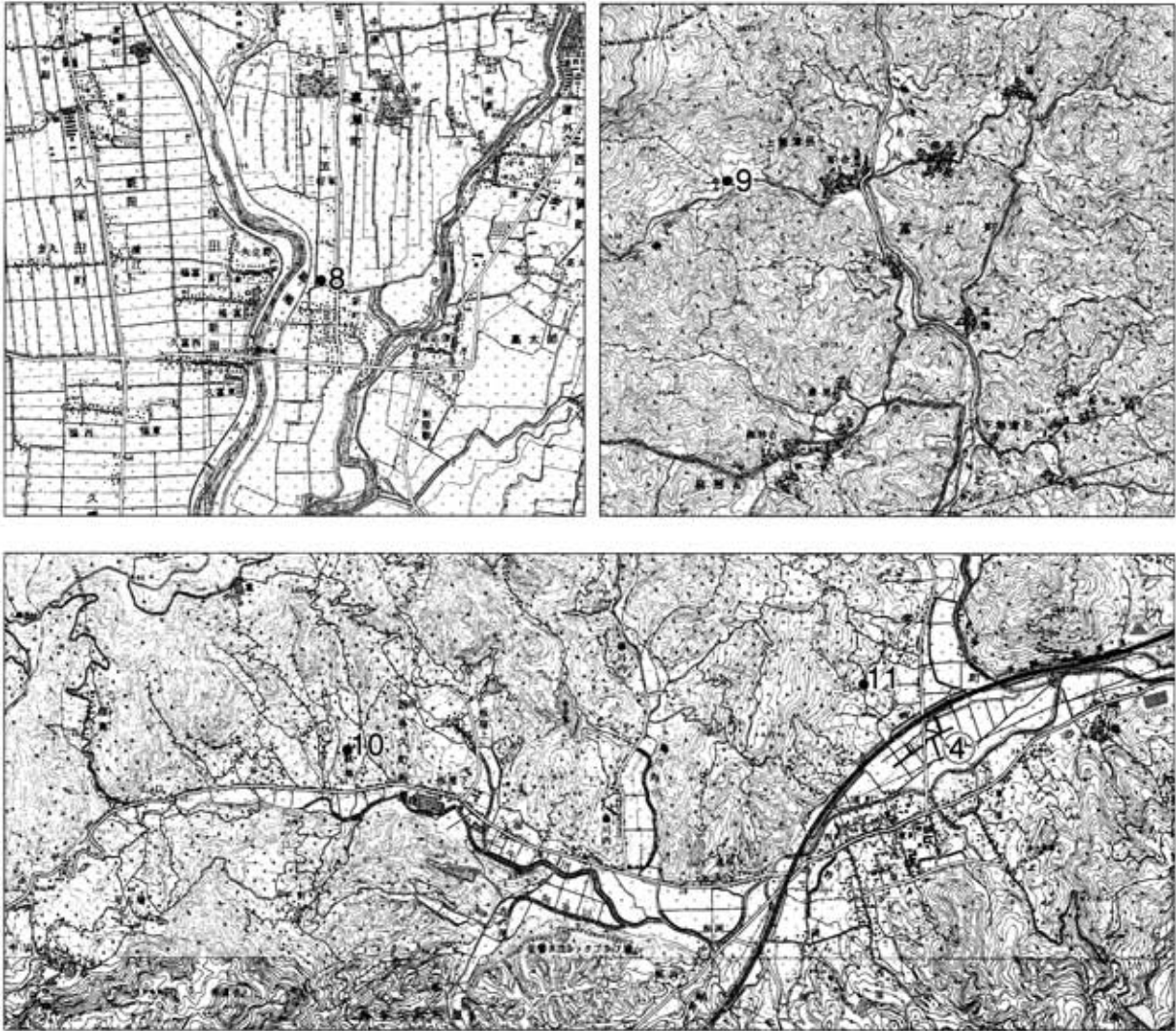


図9 佐賀西部地区周辺地形図②(1:50,000)

8. 佐賀市(嘉瀬排水機場) 10. 多久市(駄地地区) ④八ッ溝遺跡
9. 富士町(中敷遺跡) 11. " (西山地区)

掘調査例が極めて少なく具体的な様相の把握に至っていないが、南側約1.5kmには、弥生時代の遺構(井戸・土壇・掘建柱建物等)を主体とする瓦町遺跡や、南西側約500mには、弥生時代中期～後期の遺構(井戸・溝・土壇)を主体とする淵遺跡が存在する。

調査は、対象地内における水路・道路建設予定部分を中心に2×2mを基本としたトレンチを設定し、掘削機により表土除去を行い人力で精査を行った。写真撮影及び土層断面図・平面の略図作成後、埋め戻しを行った。

調査の結果、対象地区の南西側において弥生時代(中期主体か?)の溝、土壇?、小穴、包含層等の遺構を確認した。遺物は、弥生土器甕、器台等である。また、南部及び北西部では、中世～近世の溝、掘建柱建物と推定される柱穴、小穴、包含層等を確認した。遺物は、土師器小皿、杯類、陶磁器類等である。

調査対象地区南西側においては、弥生時代の遺構の広がりが予想されるが、平成9年度の確認調査(JR長崎本線より南側)で、現在の集落及び集落の隣接する田において、中世～近世の遺構が確認されたのに対し、今回の調査対象地区は比較的遺構密度が低く、現在の集落周辺に若干の遺構が確認されただけであったことから、遺跡の主体は南側の若宮周辺と推定される。



図10 佐賀市金立東部地区トレンチ配置図

また、兵庫北部地区については、平成9年度の同事業対象地で確認調査未実施であった地区において、トレンチを任意に2箇所設定して試掘を行ったが、遺構及び遺物は検出されなかった。

兵庫西部地区は、平成10年度県営圃場整備事業に伴い、佐賀市兵庫町大字洲の約5.2haを対象に確認調査を実施した。

調査対象地区は、佐賀市東部の沖積低地に立地し、標高は3.0m前後である。巨勢川の西岸域に位置し、現況は水田であり、付近にはクリークが縦横に走る。周辺では、北方約700mの地点に、平成7年度の調査で中世～近世の集落が確認された妙常寺南・同北遺跡が存在し、巨勢川を越えた東方約500m～1kmには、平成10年度の調査で、弥生時代中期の遺構と、中世～近世の集落が確認された若宮遺跡が存在する。

調査は、対象地内の水路建設予定地を中心に、任意にトレンチを12箇所設定し、掘削機により掘削し、人力により精査を行ったが表土層中より弥生土器小片を若干数検出したのみで、遺構は検出されなかった。

嘉瀬地区は、嘉瀬排水機場建設に伴い、佐賀市嘉瀬町大字十五の約0.77haを対象に確認調査を実施した。

調査対象地区は、佐賀市南西部の嘉瀬川東岸の沖積低地に立地している。周辺には、十五遺跡や中原遺跡などの近世の遺跡が存在するが、遺跡密度は比較的疎である。

調査は、対象地区内に任意にトレンチを14箇所設定し、掘削機により掘削し、人力により精査を行ったが、遺構・遺物ともに検出されなかった。

佐賀市久保泉町大字川久保に所在する鳥越ため池(図13・14)は、下流地域12.1haを受益対象とする農業用ため池である。近年老朽化が著しく、底樋や斜樋の接合部からの漏水の他、堤体そのものからも漏水がみられ、このまま放置すると堤体の決壊の恐れがあり下流地域への甚大な被害が想定されることから、ため池改修工事を実施したい旨の協議があったのは、平成9年10月のことである。この付近は、史跡帯隈山神籠石の指定地内にあたるため、工事の取扱いについては、慎重な対応が必要とされた。

帯隈山神籠石は、昭和16年に工事中に発見され、昭和26年には史跡に指定されている。脊振山南麓の標高178mの帯隈山を中心に、切石を並べた列石線が帯隈山から、天童山、鳥越山、清兵衛山、桃山の山腹や山裾を巡って一周し、その長さは約2.4kmに及ぶ。途中3ヶ所の谷を渡り、谷部分に水門跡が推定されているが、調査による確認はできていない。

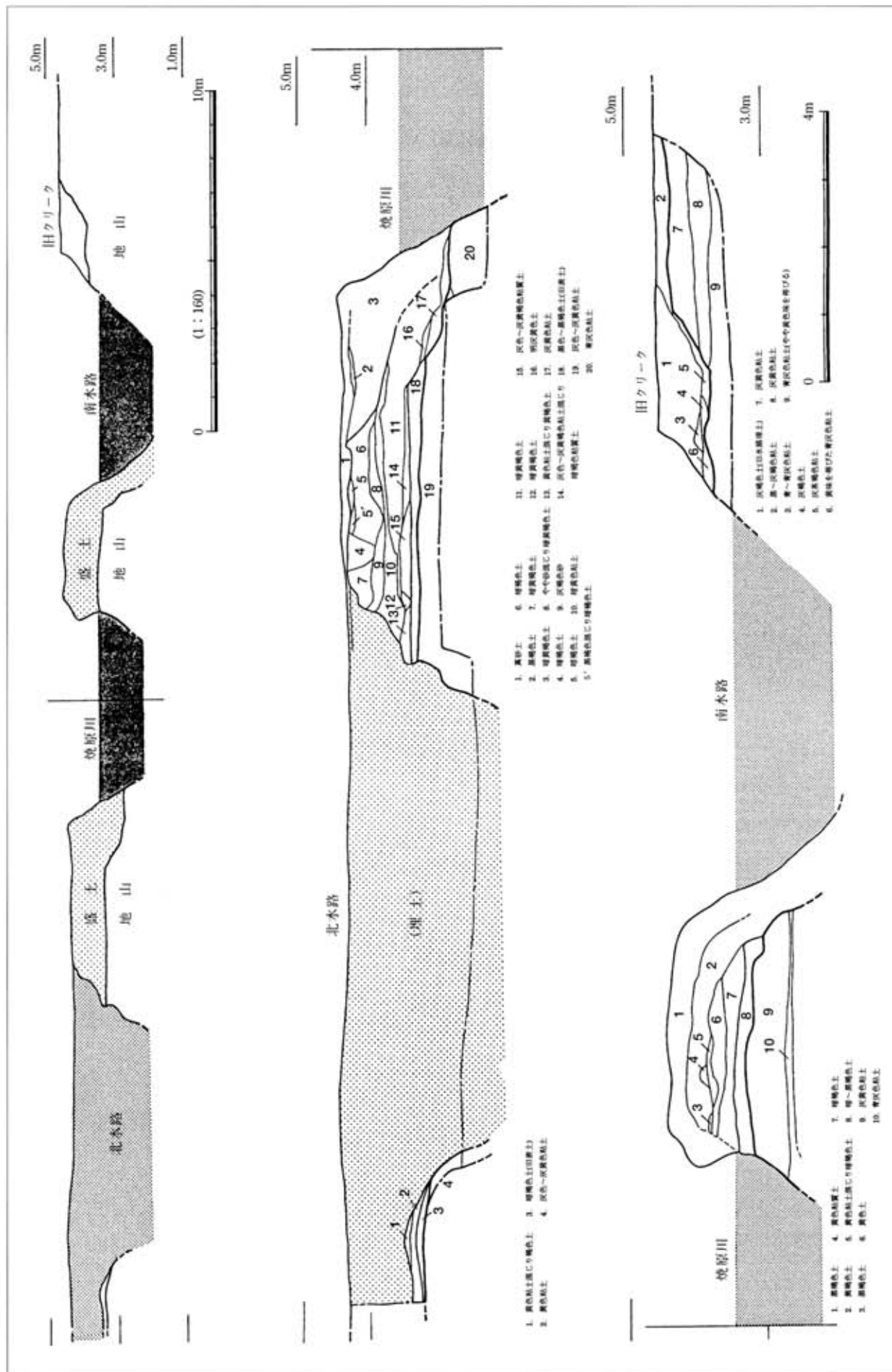
鳥越ため池は、天童山と鳥越山の谷に上下二つの池が造られており、二つの池を仕切る堤防が列石線に推定されている。堤防の長さは67m、高さは6.7mあり、底樋が中央やや西側に埋設されている。工事は堤体を開削し、現状位置での底樋付け替えを行う計画である。現在の底樋が設置された時期は不明であるが、水門が存在する可能性も否定できず、またため池改修工事が農業用水確保のため極めて期間の制約を受けるため、遺構が発見された場合、その取扱いの協議に時間を要することが想定されることから、遺構の有無を把握することが第一義であると判断された。ただし、発掘調査による遺構の確認は、ため池の利用面からまた堤体の安全面から実施することは難しいため、文化庁とも協議し、非破壊的方法による調査を実施することにした。

調査は、他の事例等を参考にし、レーダー探査及び電気探査による方法で、平成10年6月1日から3日の間に実施した。なお、調査は応用地質株式会社に委託し、調査に際しては文化庁に現状変更の許可を受けた。

レーダー探査は、堤体の横断(東西)方向に4本、縦断(南北)方向に11本、堤体の東端に2本の測線を設定し、電気探査は横断方向に2本、縦断方向に1本の測線を設定した。

測定後の分析によると、

- ①現在の堤体の下に同様の形状を示す土層があり、古い堤体に新たに盛土を行った形跡が認められること



②下流（南）側法面の下部の数カ所に石等の異物が存在し、おおむね連続すること

③中央部と東側では開削跡あるいは埋め戻し跡と考えられる箇所が2ヶ所あること

があげられ、②から列石、③から土塁の開口部や水門跡の存在が推定された。

この結果により、再度工法等について佐賀市及び県の農林担当部局と文化財保護部局で検討・協議を重ねた。特に底樋については、現在の位置が水門跡の可能性が高いこと、現在の底樋を造る際水門跡を利用した可能性もあること等遺構の存在が考えられることから、探査により堤体の東側で開削した痕跡が認められた部分に位置をずらし、現底樋は埋めてしまう方法をとることになった。また工事に際して発掘調査を行い、遺構が確認された場合は、その保存方法等について協議を行うことにした。

なお、発掘調査は11年度の工事に合わせ、10月から佐賀市教育委員会が実施しており、列石の一部が確認されているが、この報告は別途佐賀市教育委員会により行われる予定である。

幹線水路徳永線（図15・16）は、筑後川下流農業水利事業に伴い、佐賀市金立町大字金立の平成10年度県営圃場整備地区内の約1ha（延長600m）を対象に確認調査を実施した。

調査の対象となったのは、標高4m前後の水田地帯を西から東に向かって流れる焼原川から用水を取り入れ、再び排水として放流する工夫が認められる水路である。対象地の西約500mには、縄文時代晩期の遺物包含層が確認された薬師森遺跡が存在しており、北側の集落周辺の微高地となっている畑などには、弥生時代～中世の集落が比較的良好に展開していると考えられている。

調査は、掘削機により表土除去を行い、さらに掘削機で掘り下げ、盛土の状況を確認した。次に人力で盛土の土層断面の精査を行い、写真撮影及び土層断面図を作成した。

調査の結果、焼原川の南側及び北側に水路を開削し、その土を盛り上げた状況を断面の観察から確認した。3本の水路（うち1本は焼原川）が2本に収束する地点の平面的遺構（堰など）の有無も考慮し試掘を進めたが、遺構・遺物は確認されなかった。

遺物が出土していないため、これらの水路の時期決定については明確にし得ないが、近世初頭の成富兵庫茂安による治水事業との関連が注目される。悪水（＝排水）、良水（＝用水）の思想が随所に認められる。また、地元の間き取り調査によると、今回の調査地点から約200mの焼原川が直角方向に屈曲する地点の西側一帯は「遊水地帯」として洪水時に活用されていたとのことである。

（2）その他の地区（大和町・三日月町・多久市・富士町）

大和町は、佐賀西部導水管水路工事に伴い、大和町大字久留間（久留間地区）の約0.3ha、同町大字東山田（東山田地区）の約0.12haの2地区を対象に確認調査を実施した。

対象地のうち、久留間地区は県道小城・北茂安線の南400mにある下村集落のさらに南200mの地点で、水田、畑地が広がっている。また、今回の調査区東端から東約200mは三日月町との町境である。周辺では、これまでに下村の集落内で3件、西の西部ライスセンターの建設工事と周辺の個人住宅2件で確認調査が実施されているが、遺構は検出されていない。東山田地区は、県道小城・北茂安線に接する地点で、周辺は水田・畑地である。今回の調査地点は包蔵地外であるが、約40m東の確認調査地点では、弥生時代の可能性のある遺構が過去に検出されている。

調査は、久留間地区対象地内に任意に6ヶ所のトレンチを設定し、遺構の有無を確認した。4・6トレンチで自然流路を検出し、出土した遺物は、弥生土器小片、土器細片のみであった。また、東山田地区対象地内では、

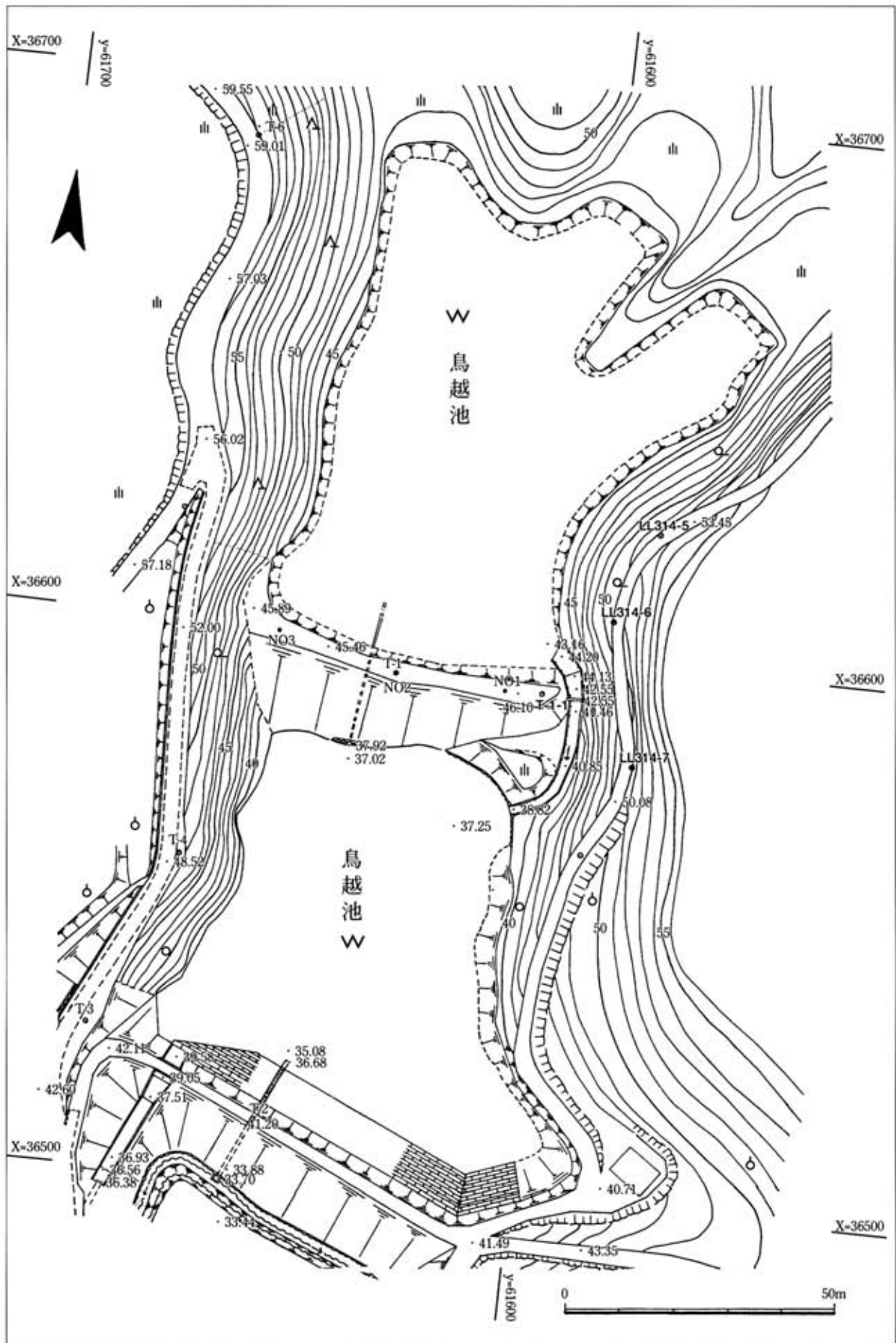


図15 佐賀市鳥越溜池周辺地形図

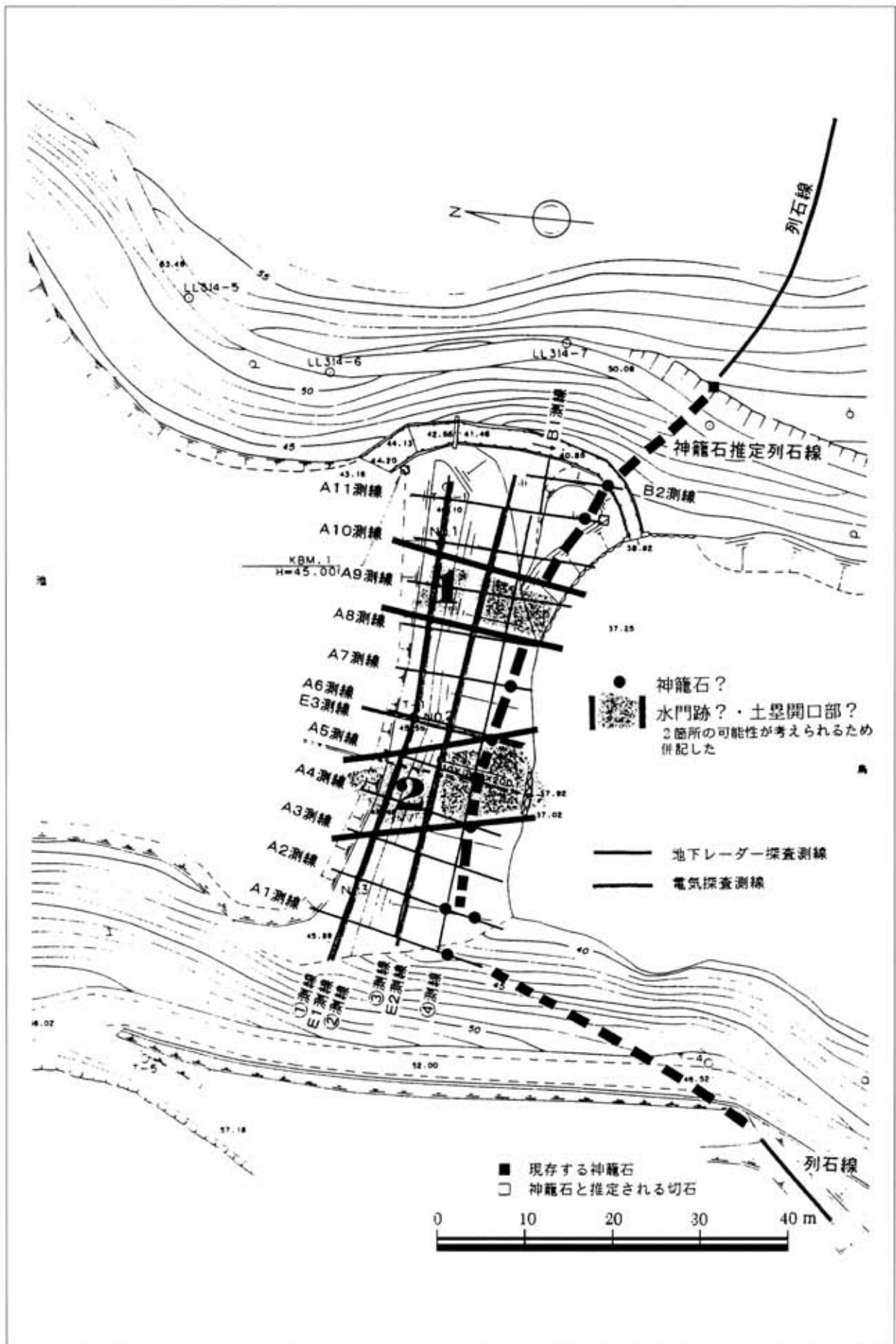


図16 鳥越溜池レーダー探査・電気探査結果図

任意に4ヶ所のトレンチを設定し、掘削機により表土を除去し遺構の有無を確認した。遺構は検出されず、4トレンチの客土内より近世の染付片が少量出土したのみであった。

今回の調査結果及び周辺の調査結果から、対象地内2地区に遺跡は存在しないものと考えられる。

三日月町では排水機場建設に伴い、三日月町大字金田の約0.3haを対象に確認調査を実施した。

対象地は、町の南端部にあたり、東方に嘉瀬川をはさんで佐賀市に接し、南方は佐賀郡久保田町に近接する圃場整備が行われた標高約2.7mの水田である。対象地の西方約100mの地点には、嘉瀬川浄水場建設工事に伴い、平成7年度から9年度にかけて約10,000m²を対象に発掘調査を実施し、古墳時代から中世にかけての多数の遺構及び遺物を確認した社遺跡が存在する。

調査は、対象地内に任意に8ヶ所のトレンチを設定し、掘削機により耕作土、客土を除去後遺構検出を行い、図面と写真により記録を行った。

調査の結果、遺構及び遺物とも確認できなかった。対象地は、現在の堤防が形成される以前の嘉瀬川の支流もしくは川岸であったと考えられる。

多久市の駄地地区では、棚田地域等緊急保全対策事業に伴い、多久市西多久町駄地の約5.0haを対象に確認調査を実施した。

対象地は、多久市西部の標高100m前後の尾根筋に営まれた水田地帯であり、比較的勾配が急であるため、石垣を築き小規模な棚田を形成している。駄地公民館の北側斜面にあたる。周辺での調査例は無い。

調査は、人力により表土除去後精査を行った。写真撮影及び土層断面図・平面の略図作成後、埋め戻しを行った。

確認調査の結果、調査区南端部のトレンチから近代の土壌を検出した。遺物は、近世及び近代の陶器片を検出した。その他のトレンチでは遺構・遺物は確認されなかった。

遺物の散布状況から、現在の集落周辺に近世の遺構が広がっているものと推定されるが、平坦部の面積が比較的狭く、急傾斜地が多いため、遺構の密度は希薄であると思われる。

また西山地区では、ふるさと農道緊急整備事業に伴い、多久市多久町の約0.05haを対象に確認調査を実施した。

対象地は丘陵地の山林内で、周辺には、九州横断道開発に伴う発掘調査で弥生時代～中世の遺構を確認した撰分遺跡や県営圃場整備に伴う発掘調査で弥生時代終末の木器が多数確認されたハツ溝遺跡が存在する。

調査は調査区内に2m×2mのトレンチを任意に設定し、人力により掘削を行った。検出された遺構は陶石の採掘跡(?)、検出された遺物は中世の土師皿の細片等のみで、遺跡の存在を確認し得るには至らなかった。

富士町は、森林空間総合整備事業に伴い、富士町大字上無津呂の約0.8haを対象に確認調査を実施した。

対象地は、福岡県との境にある羽金山(900m)の東南山麓、東流する川頭川の北側、標高400m程度の日当たりのよい緩やかな斜面で、現況は、畑、水田、宅地である。東方1.5kmの相尾集落周辺に弥生時代の遺跡である相尾遺跡、北北東3kmの長野峠周辺に縄文時代の遺跡である長野峠遺跡が存在する。

調査は、調査区内の任意の場所に1.5m×2mのトレンチを設定し、人力により掘削を行ったが、遺構及び遺物は確認されなかった。

3. 佐賀南部地区の調査



図17 佐賀南部地区周辺地形図(1:50,000)
1. 武雄市(南檜崎地区) 2. 有明町(深浦地区)

(1) 有明町（深浦地区）

深浦地区（図18・19）では、復旧治山事業に伴い、有明町大字深浦にある仏龕の記録保存調査を実施した。

保存までの経緯は次のとおりである。

復旧治山事業古渡地区1号工事として、土砂流出防止・横浸食の防止及び溪床勾配の緩和を目的に谷止工を施工中、掘削機の搬入道路建設路線内にかかる大岩に、人工的と見られる彫り込みが発見されたとの連絡を武雄農林事務所から受け、工事を中断し、農林事務所立ち会いのもと現地を県文化財課職員が確認し、その結果をもとに協議を行った。工事計画では、対象となった大岩は直接工事による影響は受けないことを確認したが、掘削工事等による振動などで、間接的に影響をうけるケースも考えられるため、工事の行程を変更し、記録保存を行うことになった。

対象となる彫り込みのある大岩は、有明町と鹿島市の境界となる塩田川の左岸に位置する標高約30mの谷部にある。大岩の東約20mには、古渡天満宮があり、そのすぐ脇には、大岩に二個の獅子頭が浮彫状に刻出された磨崖石獅子頭がある。

調査は、大岩にある彫り込みの正面・横断面・縦断面の実測図作成及び写真撮影を行った。

彫り込みの全体は高さ約50cm、幅約35cmで、中央に、約15cmの奥行きのある駒形を呈す彫り込みがあり、その両脇に、観音開きをした扉部をイメージする奥行き約8cmの長方形の彫り込みがある。長方形の彫り込み内には、文字のようにもみえるかすかな彫り込みがあったが、拓本をとっても明確にはできなかった。彫り込み自体に刻銘等がなく、周辺には遺物の散布等もないことから、年代や彫り込み自体が何であるかを明確にすることはできなかったが、石造物に精通されている巖木町の志佐教育長に写真を見ていただき、かつては、中央の駒形を呈す彫り込みに神体を祀って信仰の対象としたであろう仏龕とよばれるものではないかとの御教示を得た。

(2) その他の地区（武雄市）

武雄市は、農業集落道11号（南檜崎地区）工事に伴い、武雄市橋町大字大日の約0.3haを対象に確認調査を実



図版1 仏龕を彫り込んだ安山岩露頭



図版2 仏龕近景

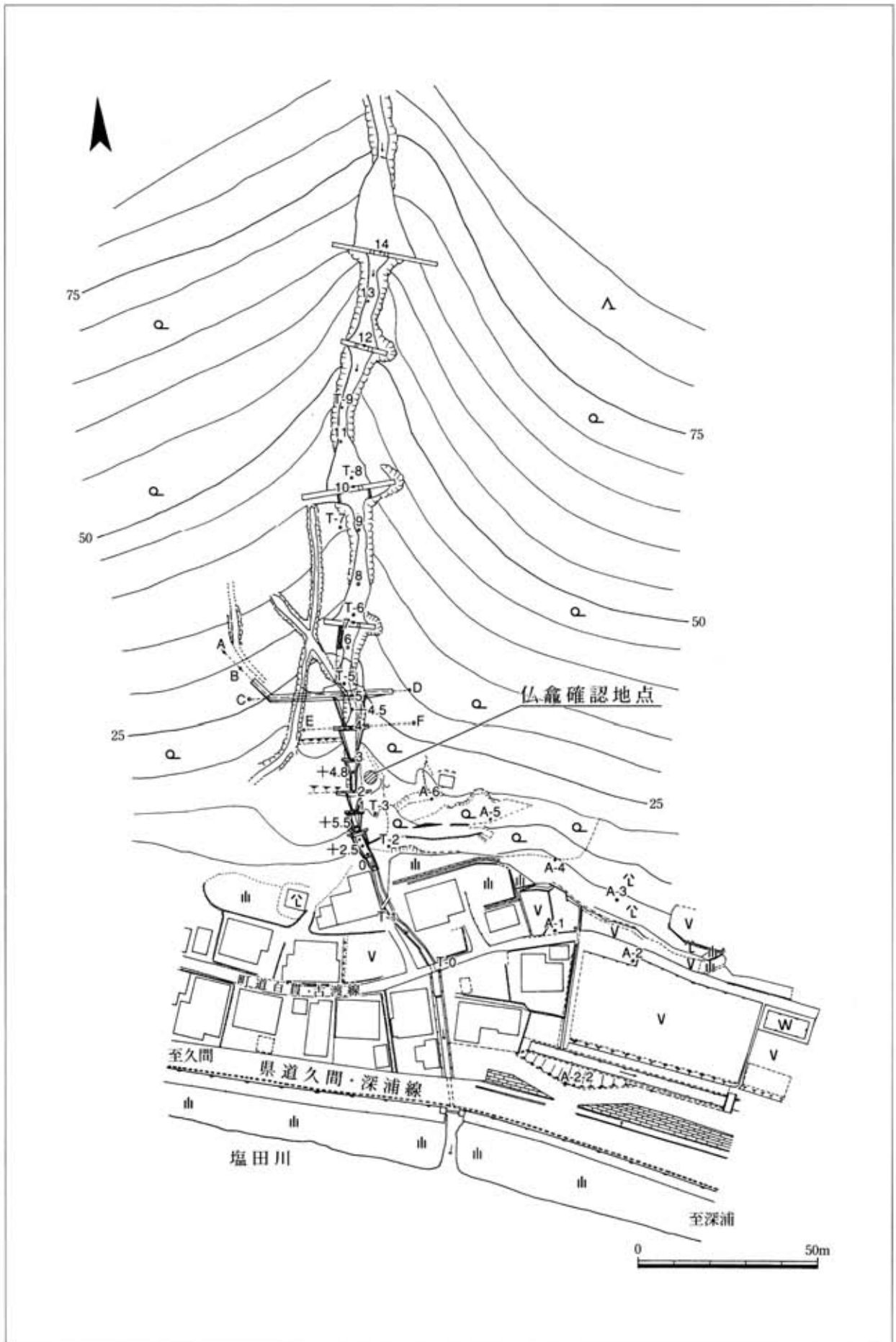


図18 有明町深浦地区調査地点位置図

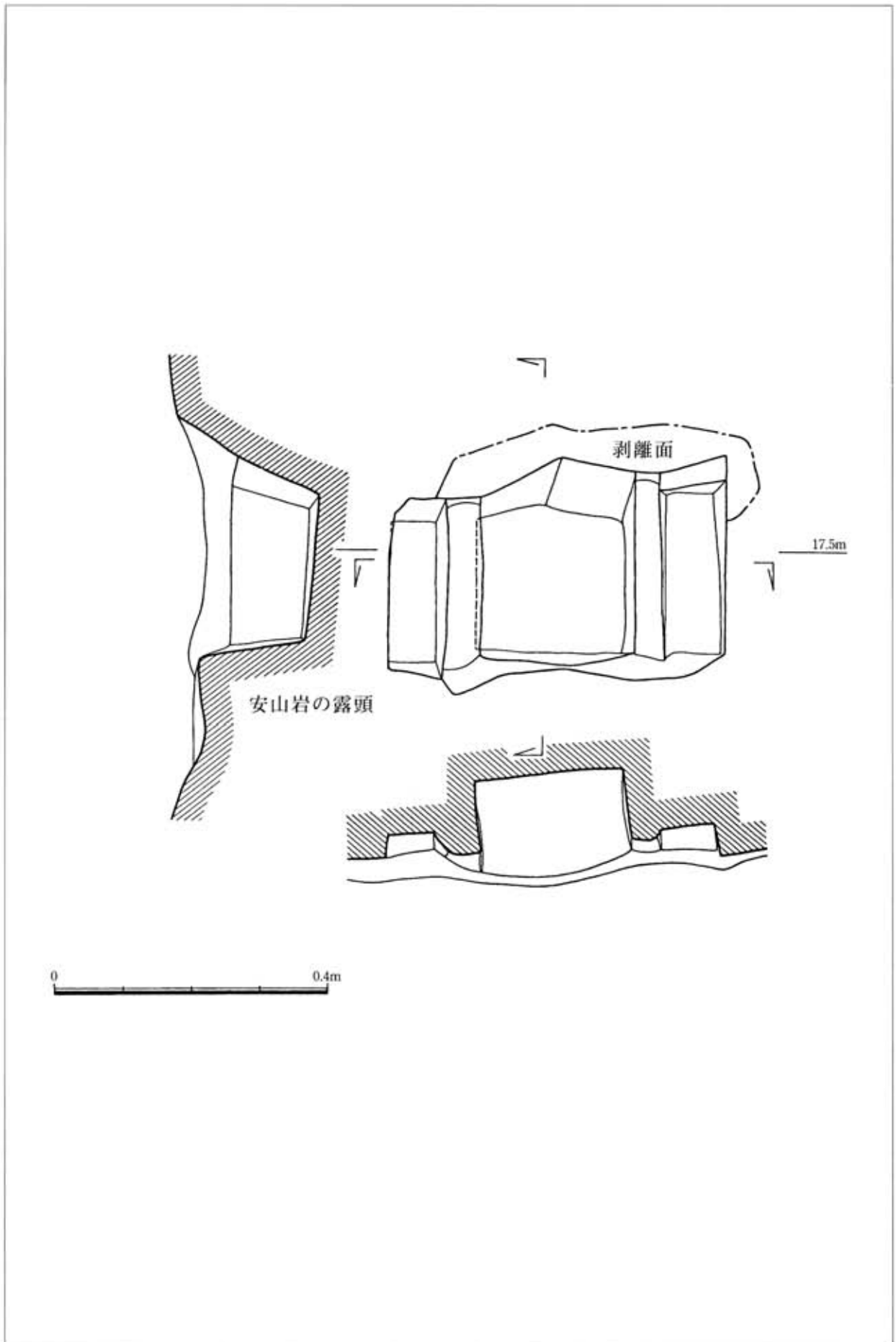


図19 有明町深浦地区仏龕実測図

施した。

対象地は、杵島山西麓から西に派生する丘陵上の標高35～54mにある。周辺には、弥生時代の櫛崎北遺跡や南櫛崎古墳が存在する。

調査は、対象地に基本を2m×2m、状況に応じて1m×2mのトレンチを任意に11ヶ所設定し、人力により掘削を行ったが、遺構・遺物ともに検出されなかった。

4. 佐賀北部地区の調査

(1) 北波多村（岸岳地区・志気前田地区）

岸岳地区（図22・23）は、県営中山間地域総合整備事業（1号遊歩道）に伴い、北波多村大字岸山の約30haを対象に確認調査を実施した。

対象地は、相知町・北波多村の町村境に所在する岸岳（岸山とも言い標高約320m）の上頂部に位置する岸岳城跡内にあたる。岸岳の標高200m以上は急傾斜をなし、山頂部は主稜が北西から南東に向かって南北に湾曲した形で約1.5km伸びている。岸岳城の主な遺構は、主稜中央部から東尾根に沿って広がっており、その北西側の尾根は「一の堀切」、「二の堀切」と呼ばれる堀切で遮断されている。その間には、高石垣で固められた曲輪が連なり、その斜面部には犬走り状の帯曲輪が取り付く。

調査は、手すり、階段設置予定地にトレンチを設定し、人力により掘削し、写真撮影及び図面作成を行った。検出された遺構は、堀切、石垣、曲輪等で、瓦（軒丸、平、丸）や陶器片等の遺物が出土した。協議の結果、大方の手すり、階段設置工事については、遺構に影響のない必要最小限の工事に留められたが、三佐衛門殿丸にあたる5トレンチの階段については、瓦の流れ込みによる堆積が考えられるため、工事の際に立ち会って採集するようにした。また、ルート全体については、基本的に当時の城道を通した形でよいが、一部については路線の変更を要望した。

志気前田地区では、同じく県営中山間地域総合整備事業に伴い、北波多村大字志気の約5haを対象に確認調査を実施した。

対象地は、標高約70mの台地上に立地し、東西400m、南北600mの範囲で土器、石器が散布していたと伝えられる。また周辺には、池石、裏ノ谷、辻の上等の縄文時代の遺跡が存在している。

調査は、対象地内に任意にトレンチを設定し、人力により掘削し、2ヶ所について深堀りを行った。また、写真撮影及び平面略図を作成した。遺構・遺物ともに検出されず、すべてのトレンチにおいてかなりの削平を受けた状況が確認された。また、対象地のほぼ全域が2m以上の削平を受けていることが、地元の方からの聞き取りによりわかった。

(2) その他の地区（伊万里市・浜玉町・西有田町）

伊万里市では、農免農道整備事業に伴う、伊万里市松浦町大字山形の約延長400m、またふるさと農道緊急整備事業に伴い、伊万里市大坪町大字上原の約0.9haを対象に確認調査を行った。

松浦2期地区調査対象地は、藤川内集落の北西部の標高70m前後の丘陵部に立地し、かつては畑作が営まれていたが、現在は雑木林となっている。周辺には茅ノ谷1号窯跡（県史跡）が同丘陵先端部に存在する。窯は連房式登窯で、下位で22度、中・上位は20度の傾斜角をもち、焼成室数22、水平全長52mの規模を有する。

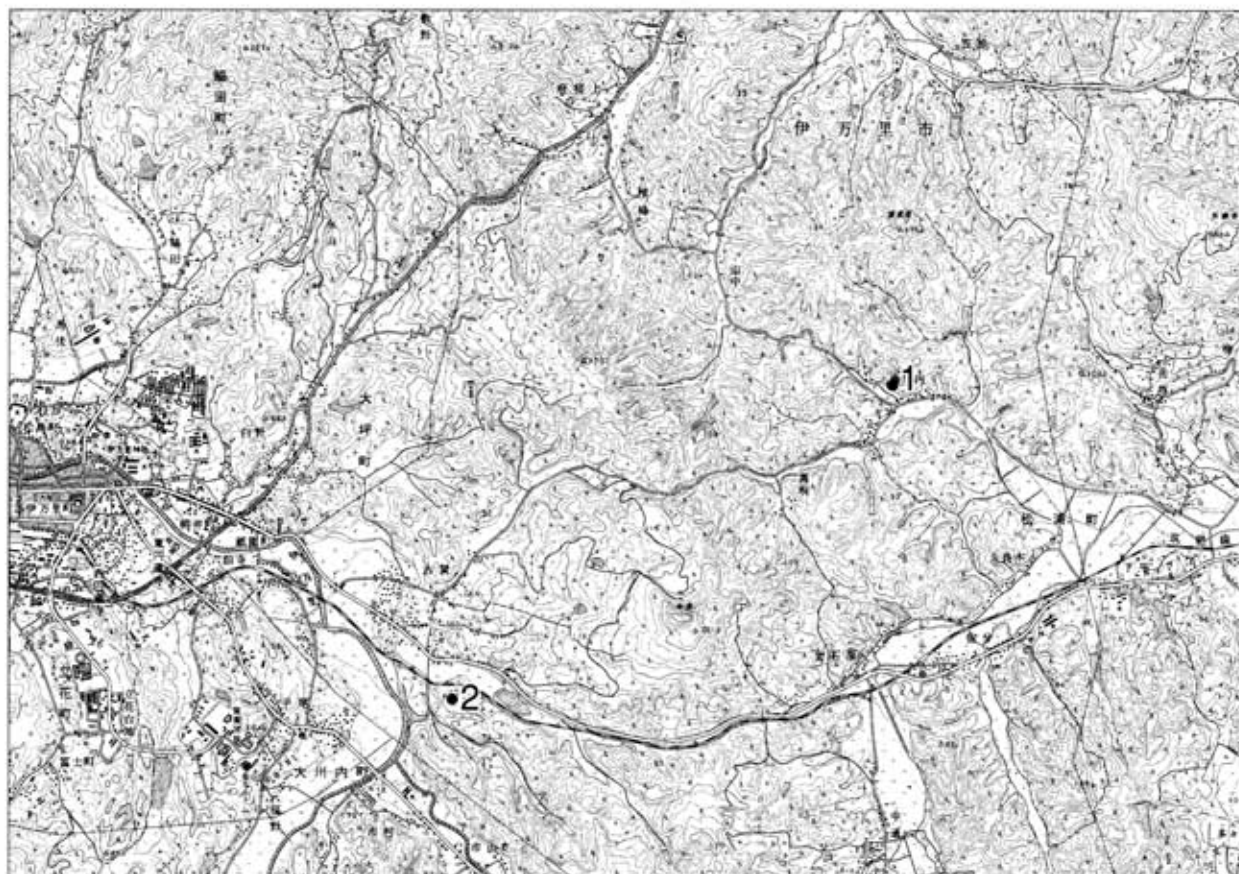


图20 佐贺北部地区周边地形图①(1:50,000)

1. 伊万里市 (松浦II期地区)	3. 北波多村 (志気前田地区)
2. " (大川内地区)	4. " (岸岳地区)

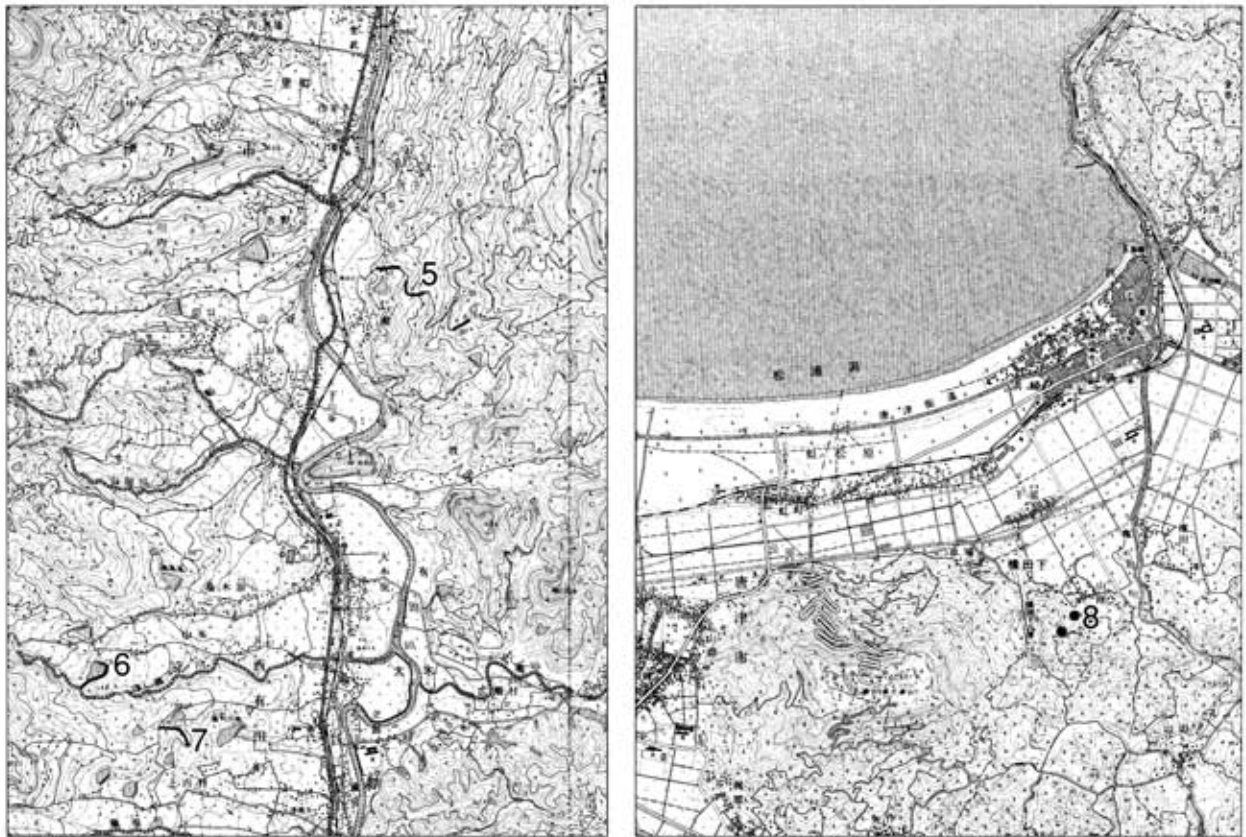


図21 佐賀北部地区周辺地形図②(1:50,000)

- | | |
|-----------------|-------------------|
| 5. 西有田町 (二ノ瀬地区) | 7. 西有田町 (西有田西部地区) |
| 6. " (伊古石地区) | 8. 浜玉町 (ひれふり地区) |

焼成室は塗り壁造になっており、中位部分で幅約2.7m、奥行き2.4mで、下位では東側に出入口が確認されている。また西側に物原が認められる。

調査は、2m×2m及び1m×2mのトレンチを任意に6ヶ所設定し、人力により掘削を行った。茅ノ谷1号窯跡の隣接地であることから、関連する遺構や遺物の出土が期待されたが、ともに確認されなかった。

大川内地区調査対象地は、JR筑肥線沿いの山間部に位置しており、縄文時代の遺跡である上原遺跡内にあたる。

調査は、対象地内に任意に2m×2mのトレンチを4ヶ所設定し、人力により掘削を行ったが、遺構・遺物ともに確認されなかった。

浜玉町では、畑地帯総合整備事業（ひれふり地区）に伴い、浜玉町大字横田下の約5haを対象に確認調査を実施した。

対象地は、鏡山北東山麓から北へ張り出した丘陵から派生した東向きの標高約70mの斜面上に位置するA地区と、それから谷を挟んで北東の、北へ向かって張り出した標高約48mの丘陵上に位置するB地区からなる。周辺には、国史跡の横田下古墳をはじめ大岩遺跡等の古墳時代を中心とした数多くの遺跡が点在している。

調査は、対象地内に任意にトレンチを設定し、掘削機により表土除去後、人力で精査を行った。遺構は検出されず、遺物は、弥生時代の甕破片2点と土師器皿片1点が僅かに確認されただけであった。

調査の結果、B地区については、大掛かりな農地の改変により、かなり削平された状態であることがわかった。また、A地区については、造成等の行われた形跡もなく遺跡の存在が十分に予想されたが、出土遺物もなく遺跡

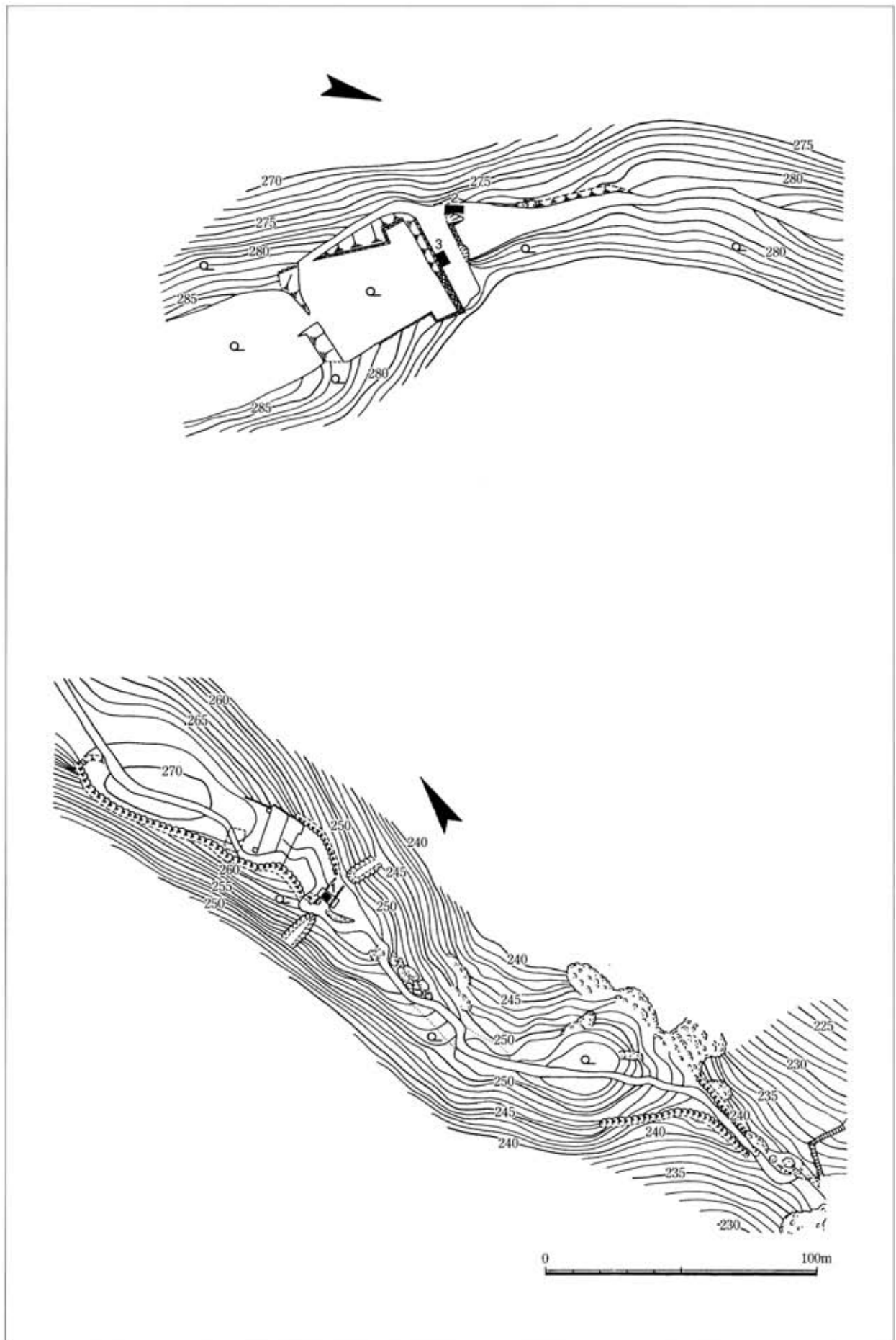


図22 北波多村岸岳地区トレンチ配置図①

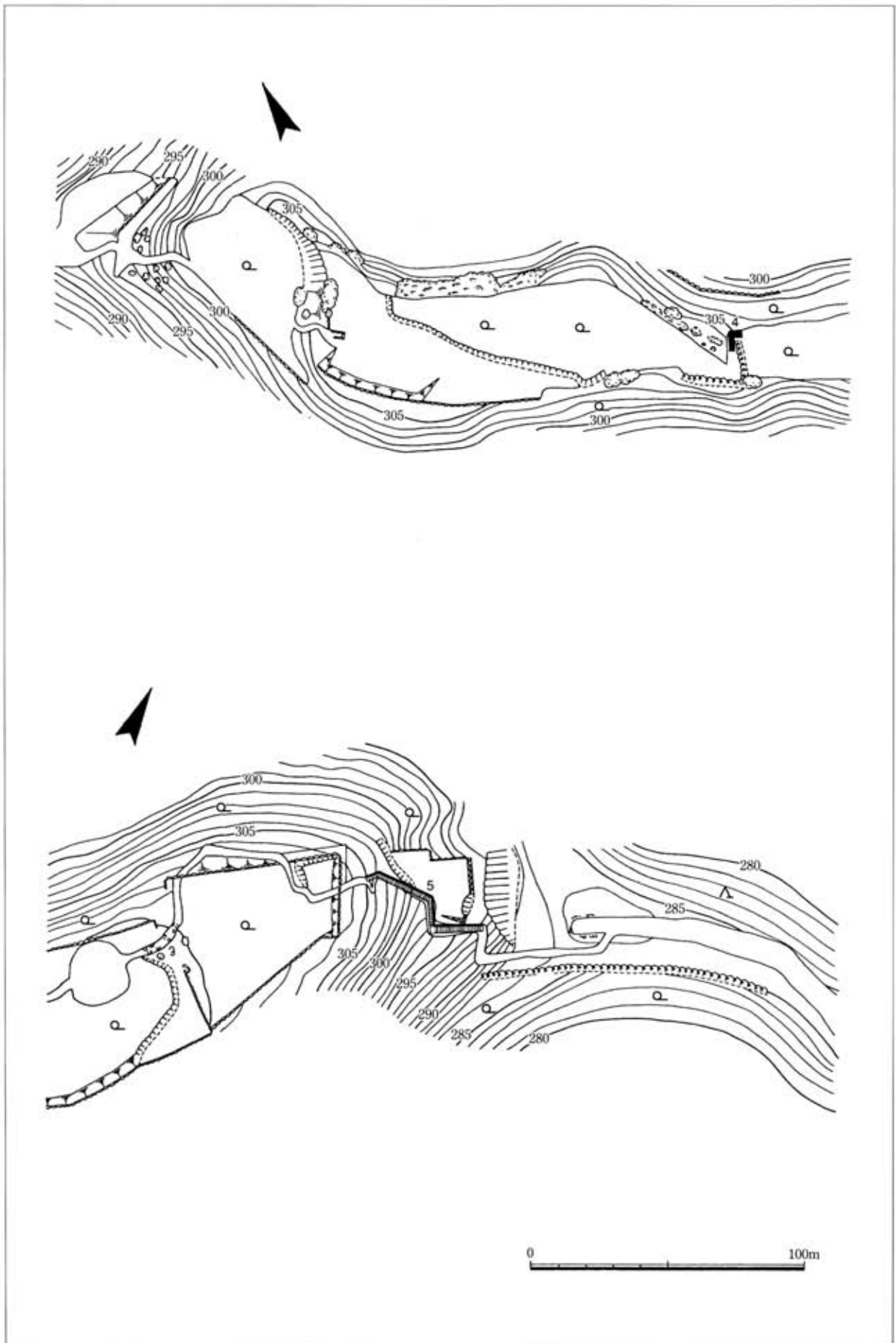


図23 北波多村岸岳地区トレンチ配置図②

の存在は確認されなかった。

西有田町では、中山間地域総合整備事業に伴う、西有田町曲川丙の20.4haと西有田町大木乙の3.0ha、またふるさと農道緊急整備事業に伴う、西有田町山谷甲の16.0haを対象に確認調査を実施した。

西有田西部地区（目塞線）調査対象地は、国見山東麓の東西に延びる丘陵上に位置し、計画路線のうち3分の2は丘陵の崖や谷部にあたる。また、対象地の一部は川良遺跡に含まれ、谷を挟んだ北側の丘陵上には壁岩遺跡、同丘陵上の西側には縄文時代晩期の遺跡である横久保遺跡が存在している。

調査は、計画路線内にほぼ20m間隔で2m×2mを基本とするトレンチを任意に6ヶ所設定し、人力により掘削を行った。事前踏査では、黒曜石片等の遺物の散布は認められず、今回の確認調査においても遺跡の縁辺部ということもあり、遺物・遺構は検出されなかった。

伊古石地区（農道18号伊古石線）調査対象地は、国見山東麓の東西に延びるなだらかな丘陵上に位置する伊古石遺跡の範囲内にあり、本遺跡範囲の中央に大きな溜池があることから、遺跡の中心は元来谷であったことになるが、一般的な遺跡の立地条件から考えると、本遺跡はむしろ東に接する立木原遺跡と同一遺跡であり、その縁辺部にあたると思われる。また、本遺跡で昭和40年に発掘調査が行われ、住居跡らしき遺構が確認されており、また別地点では押型文土器も出土したとされている。しかし、調査の報告からは実際の位置が確認できない状況である。

今回の調査は、計画路線内にほぼ20m間隔で2m×2mを基本とするトレンチを任意に4ヶ所設定し、人力により掘削を行った。事前踏査では、黒曜石片等の散布が若干認められたが、今回の確認調査においては遺物・遺構は検出されなかった。この結果からも、遺跡の中心はさらに東側にあると考えられる。

二ノ瀬地区調査対象地は、伊万里富士と美称される腰岳南西麓の、いずれも台地状に張り出した地形上に位置する館中、平木場、道海遺跡それぞれの縁辺部にあたる急傾斜地である。

今回の調査は、計画路線内にほぼ20m間隔で2m×2mを基本とするトレンチを任意に9ヶ所設定し、人力により掘削を行った。事前踏査では、黒曜石片等の遺物の散布は認められず、今回の確認調査においても遺物・遺構は検出されなかった。

5. 佐賀上場地区の調査

（1）唐津市（東山地区・桜崎地区・川頭地区・外原地区・鶏ノ尾地区）

唐津市は、県営畑地帯総合整備事業（上場Ⅲ期地区）に伴う、唐津市東山の約0.4ha、県営中山間地域総合整備事業に伴う、唐津市半田の約4.0ha（桜崎地区）・約0.6ha（川頭地区）・約2.0ha（外原地区）・約9.0ha（鶏ノ尾地区）をそれぞれ対象に確認調査を実施した。

東山地区（図26・27・28）は、肥前町との境界にあり唐津市の西側に広がる上場台地（通称）の中央部よりやや南に位置し、南に石高山（標高265m）北に野高山（標高260m）のほぼ中間で、標高約200mの準平原上に立地している。周辺には、旧石器時代から縄文時代にかけての遺跡が多く所在し、対象地区内には東山Ⅱ遺跡が含まれ、東山Ⅰ遺跡、縫城遺跡が近接している。

調査は、工事予定路線内に1.5m×1.5mを基本としたトレンチを任意に28ヶ所設定し、すべて人力により掘削した。調査員が遺構・遺物の有無を確認し、写真撮影・土層等の略実測を行った後、埋め戻した。

遺構としては、18・19トレンチから旧石器～縄文時代の遺物包含層とみられる黄褐色土層を検出した。遺物は、

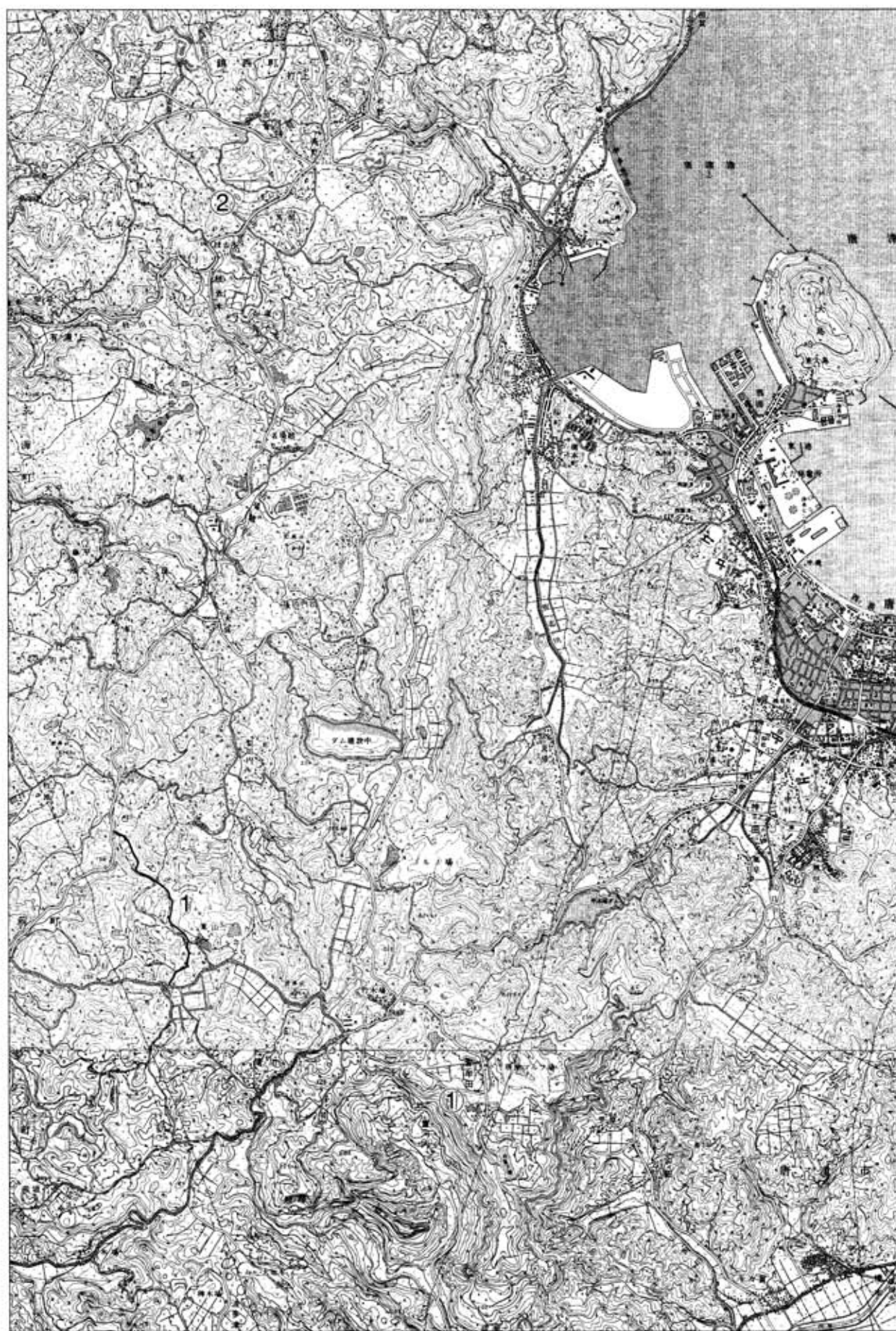


図24 佐賀上場地区周辺地形図①(1:50,000)

1. 唐津市(東山地区) ①菅牟田西山遺跡 ②枝去木分校入口遺跡

13～15・17～19トレンチから黒曜石や安山岩の剥片等が出土し、19トレンチからは安山岩製で石器の加工途中と見られるものが出土した。

今回の計画路線内で1～9トレンチにかけての地区は、遺跡が広がる良好な丘陵と考えていたが、50年程前の開拓によりこの東山地区が成立した際造成された地区であることがわかった。10トレンチ部は谷部にあたり、黄褐色土層は流れ込みによるものと考えられ遺跡は存在しない。11・12トレンチ部は礫が多く、表土下には礫も混入しており遺跡の存在は認められない。13～15トレンチ部は遺物が出土したものの遺物包含層は認められず、水田開発時に削平されたと考えられる。16トレンチ部は表土（耕作土）直下が地山層であり、17トレンチ部は僅かに遺物包含層がみられたものの、17トレンチ周辺の特に南側の遺物包含層は削平されていると考えられる。18・19トレンチ部は現地表面より約50～70cmが盛土になっており、その下の約60cmの黄褐色土の上部約40cmが遺物包含層

になると考えられる。20～28トレンチ部は谷部であり、黄褐色土がみられたが遺物包含層は存在せず、僅かな丘陵平坦面にあたる部分も表土下は地山の灰紫色礫層になっており、遺跡は存在しない。

今回遺物包含層が確認された18・19トレンチ付近は遺跡としての遺存状態がよく、道路工事予定地区に入る遺物包含層の面積は約350㎡（遺跡の全体規模は約15,000㎡になると考えられる）で保存協議が必要となった。なお、今回遺物包含層が検出された地点は縫城遺跡から南東側へ約200m、東山Ⅰ遺跡から北西側へ約100mの位置にあり、東山Ⅰ遺跡の範囲を拡大し周知化をはかった。

桜崎地区（図29）は、背振山系から続く丘陵性山地の北端に位置し、丘陵部分と丘陵間の谷部を含む。丘陵部の地質は主に風化の進んだ花崗岩類からなり、表土部分は、赤褐色～黄褐色土の状態を呈する。調査区内のこの層には、径50cm前後の花崗岩が箇所によっては多く混入する。谷部は比較的狭いが、北側の谷部では表土下1m～2m程から植物遺体層（コモ層）も確認された。丘陵部は、主に昭和37年頃のミカン園造成の際の削平が激しく、谷部は、周辺斜面からの土砂の流入のため地山までの堆積層が厚い。また、調査区は桜崎遺跡と岸高遺跡の範囲内にあり、周辺には、谷を挟んで西側の低丘陵部には葉山尻支石墓、すぐ北側の平野部には、寺ノ下遺跡が立地する。

調査は、調査予定地内に2m×2mを基本とするトレンチを53ヶ所設定し、北側の谷部については掘削機、その他は人力によりそれぞれ掘削し、遺構・遺物の有無の確認後、写真撮影、略実測を行った。今回の調査では、遺構としては、岸高支石墓のうち、破壊を免れたとされている3基のうちそれらしい1基を確認。桜崎遺跡内では、製鉄関連遺構を検出。岸高遺跡内では、中世の土壌墓を2基、支石墓状の遺構を1基確認した。遺物は、土師器片・須恵器片・黒色土器片・青磁碗・青磁片・陶磁器片・鉄滓などが出土した。SX02は、支石は確認でき

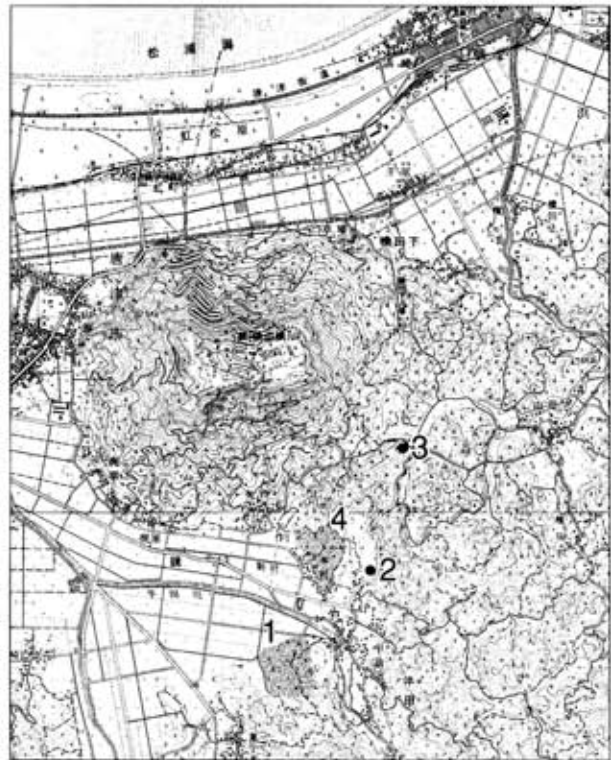


図25 佐賀上場地区周辺地形図②(1:50,000)

1. 唐津市 [唐津東部地区 (桜崎地区)] 3. * [*(外原地区)]
2. * [*(川頭地区)] 4. * [*(鶏ノ尾地区)]

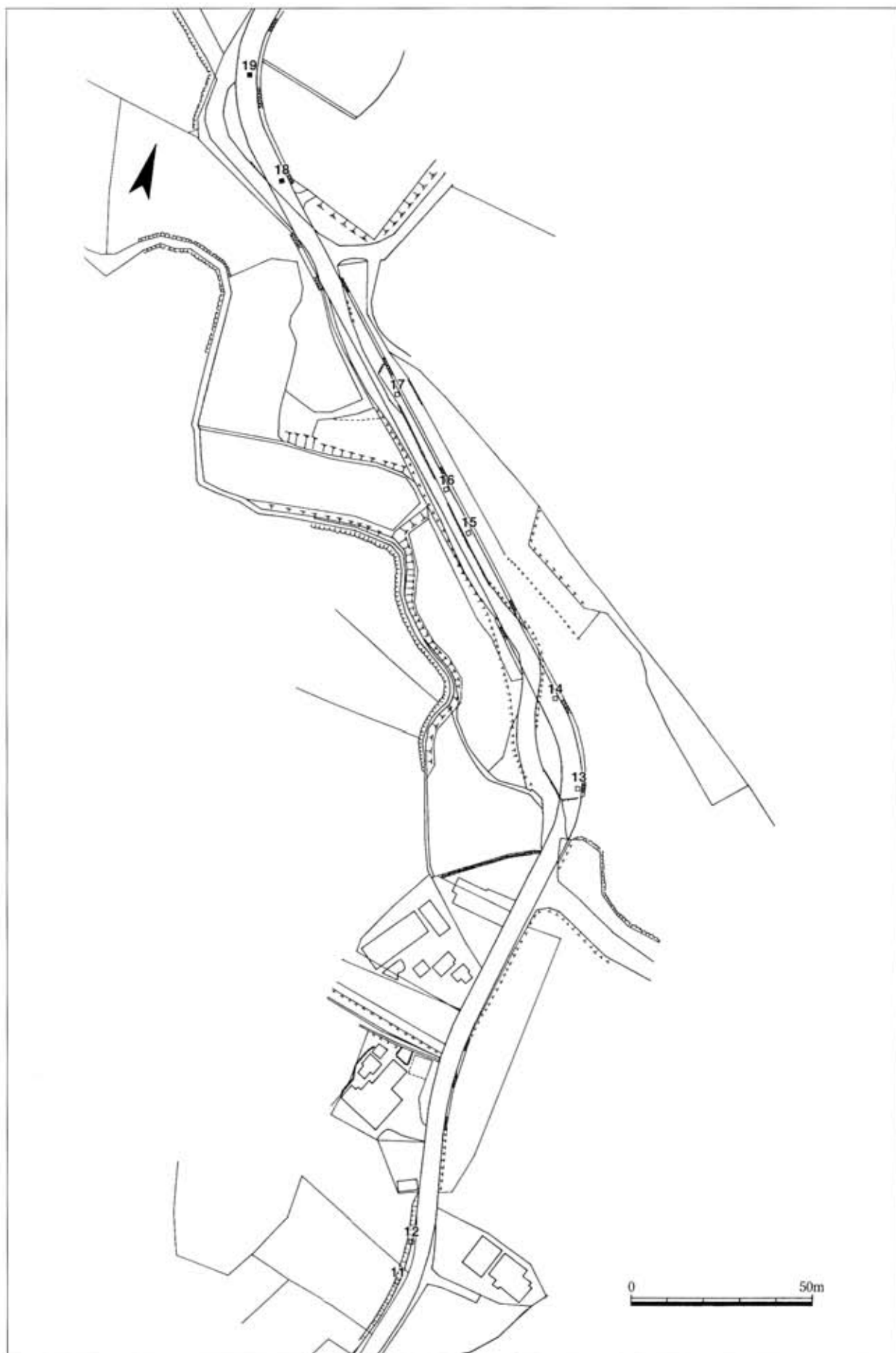


図26 唐津市東山地区トレンチ配置図①

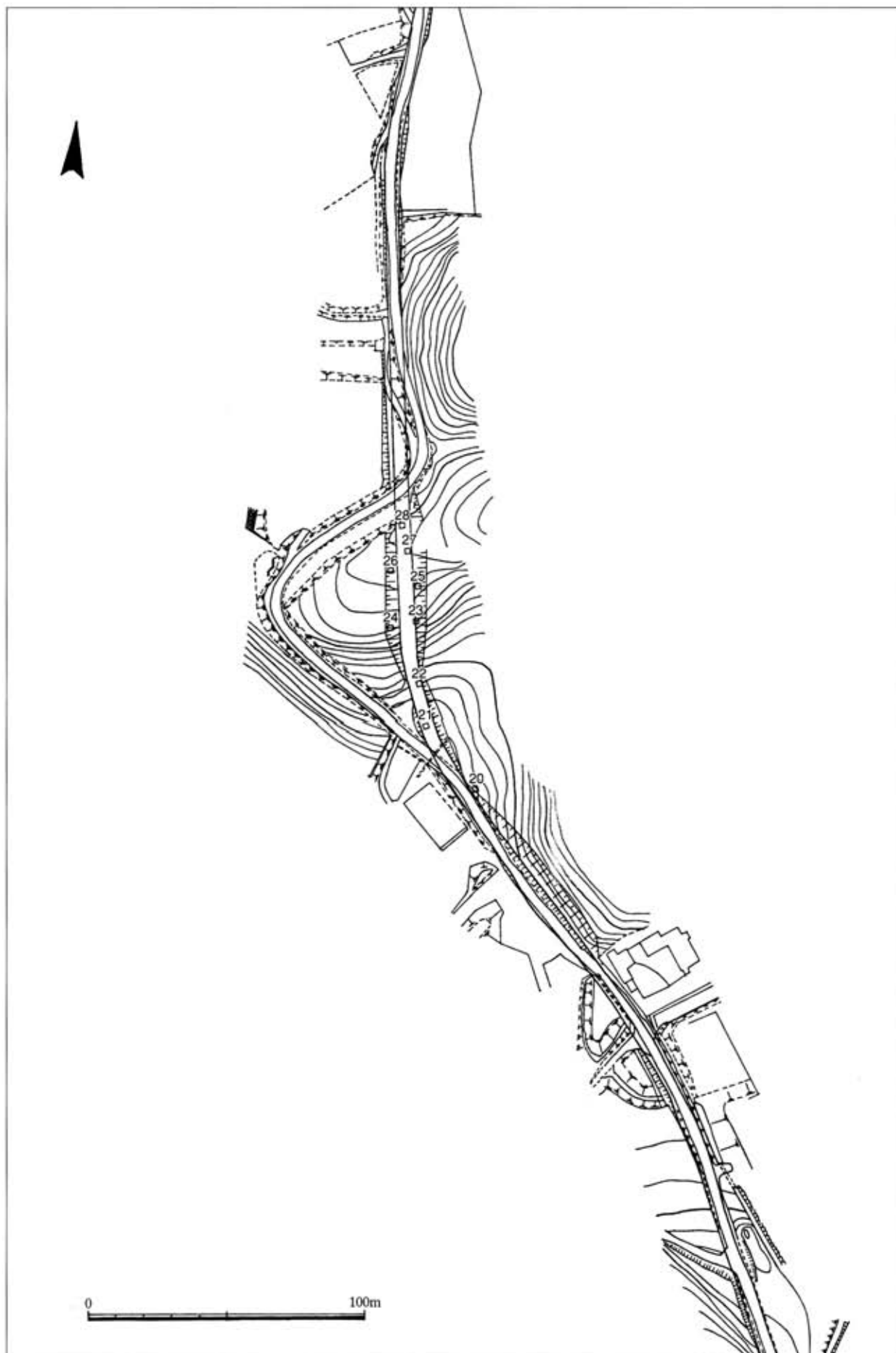


図27 唐津市東山地区トレンチ配置図②

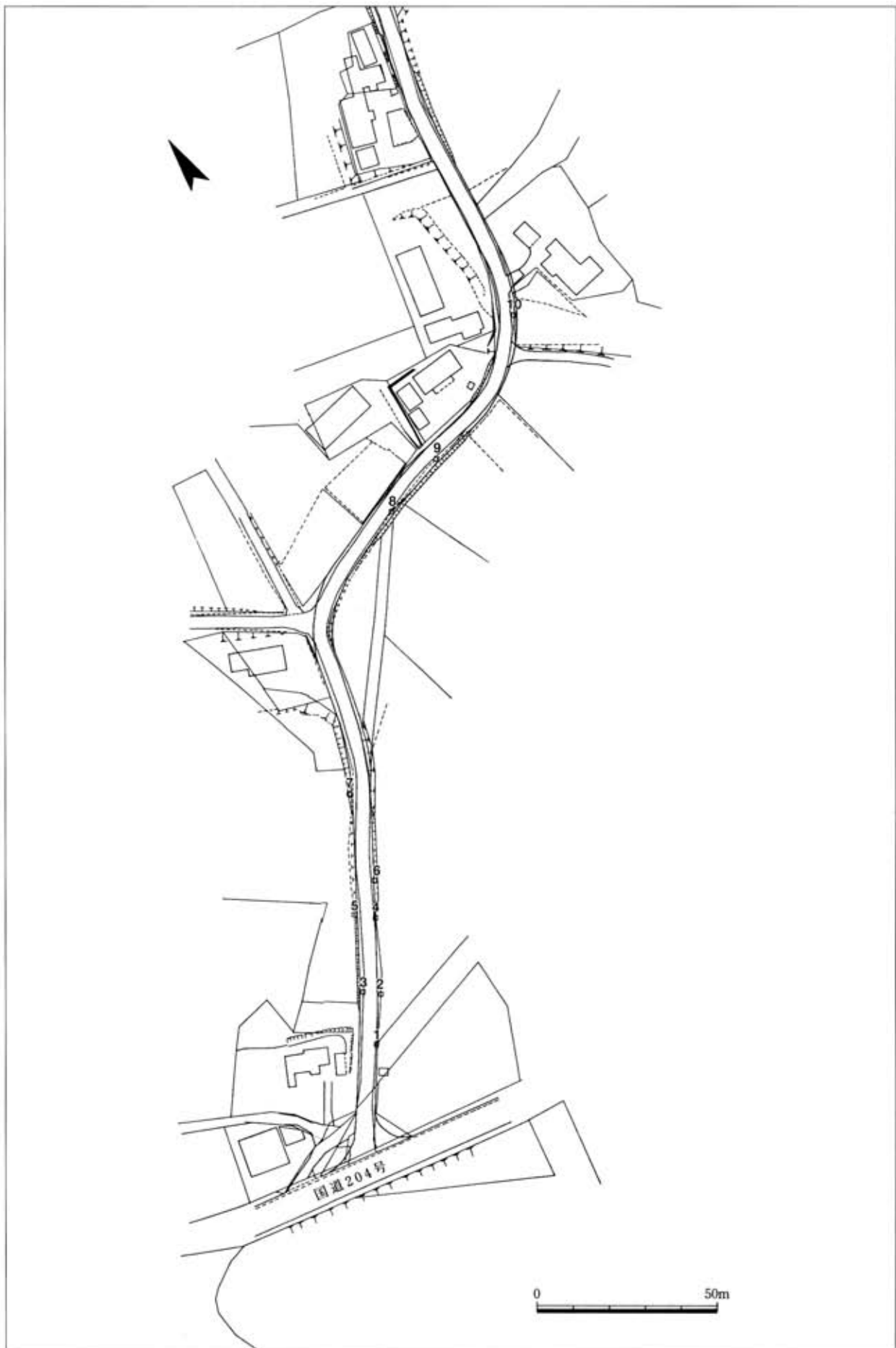


図28 唐津市東山地区トレンチ配置図③

なかったが、上石の下に広がると思われる遺構の端部を検出した。S X02は、岸高支石墓群があったとされる丘陵の狭い尾根上に立地し、周囲には地山に入り込む石、ミカン園開墾の際人為的に動かされたと思われる石の両方が点在する。「古代末廬文化集成」に記載されている、破壊を免れた3基の支石墓のうちの1基の可能性もあるが、他の2基に関しては、現況での確認はできなかった。S X11・12間では遺構状のラインを確認した。この地点は、北東方向に緩やかに下る丘陵上で、試掘からも大きな削平を受けていないことがわかり、遺跡の立地は十分に考えられる。1トレンチでは鉄滓が3点、厚く堆積した盛土の上位から出土した。このため鉄滓の溜まりの有無を確認するため1トレンチ下段に17トレンチを設定し、掘り下げた結果、鉄滓は確認できなかったが、他のトレンチでは確認できなかった非常に硬く締まった土が、谷の傾斜を埋めほぼ水平に堆積することを確認し、一部では赤化も認められた。これが製鉄に関連する遺構（排滓場）であるかどうかは現段階では断定できないが、少なくとも周囲に製鉄関連遺構があった可能性が高いことが確認された。41トレンチでは、土壇墓と思われる遺構内から、龍泉窯系の体面外部に連弁紋をもつ完形の青磁碗が出土した。当地区は、近年まで墓域として存続していたとのことで、55トレンチでは大量の近世の陶磁器が出土した。また、56トレンチでは、埋土に若干の疑問が残るものの、土壇墓状の遺構を検出した。

今回の調査結果から、当地区は、北側に視野の開けた丘陵の比較的広い平坦面を持つ頂上部にあたり、地形もそれほど大きく変えられた様子がないことがわかり、保存協議対象地区にしていたが、工事計画の変更により、一度は工事予定地から外された。しかし、再度の計画変更によりS X02以外の部分については再び工事予定地に入れられたため、協議の結果再調査を行うことになった。

再調査では、墓坑の有無の確認を主眼とした調査を行った。トレンチでは、同丘陵の他の地点でみられた比較的粘質の強い赤褐色の地山があまり見られず、代わりに盛土（もしくは耕作土）の直下から未風化の花崗岩が数多く混入する地山が検出され、尾根部分が削平を受けた感をさらに強くした。また、前回の調査と併せかなりの広さのトレンチを入れたにも関わらず、遺構あるいは小破片の遺物すら出土しなかったことから、少なくとも保存の対象となったS X02以東に関しては、支石墓群が存在したとしてもかなりの削平を受けたものか、もしくは調査区北側のミカン園造成の際に消滅させられたものと思われる。

川頭地区（図30）は、唐津市の東端、背振山地から西に延びる標高25mほどの低丘陵上に立地する。地質は、主に風化の進んだ花崗岩類からなり、表土部分は、赤色土の状態を呈する。近年大規模な造成が行われた模様で、旧地形は現況よりも細長く伸びだした丘陵で、周囲を谷部に囲まれていたと思われる。周辺では、平成7・8年度に発掘調査が行われ、弥生時代前期末から中期中葉の集落が確認された、堂ノ前遺跡・井ゲタ遺跡や、古墳時代前半の住居跡6基を検出した寺の下遺跡、当地区と同じく中山間総合整備事業による開発が予定されている鶏ノ尾古墳群等の遺跡が所在する。

調査は、掘削機を使用して2m×10m程度のトレンチを掘削し、掘削機の進入できない地点を、人力により2m×2mを基本とするトレンチを掘削した。掘削後、精査を行い、写真撮影・土層実測を行い埋め戻した。検出した主な遺構は土壇墓1基のみで、遺物は近世～現代の陶磁器片数点であった。

調査の結果、当地区が予想以上に造成を受けていることがわかった。当地区東側の北半分に当たる地点が、現況と異なり、谷が侵入していたことが確認できた。また、各トレンチの土層観察から、当丘陵の標高のピークが第2トレンチ付近にあることも判明した。これらのことから、当丘陵は、幅15mほどの狭い鞍部で東側の山地とつながる丘陵であることが想像される。

さらに、第2トレンチおよび周辺のトレンチの土層観察から、時期を遡っても近世までと思われる畑作の耕作



図29 唐津市唐津東部地区〔桜崎地区〕トレンチ配置図

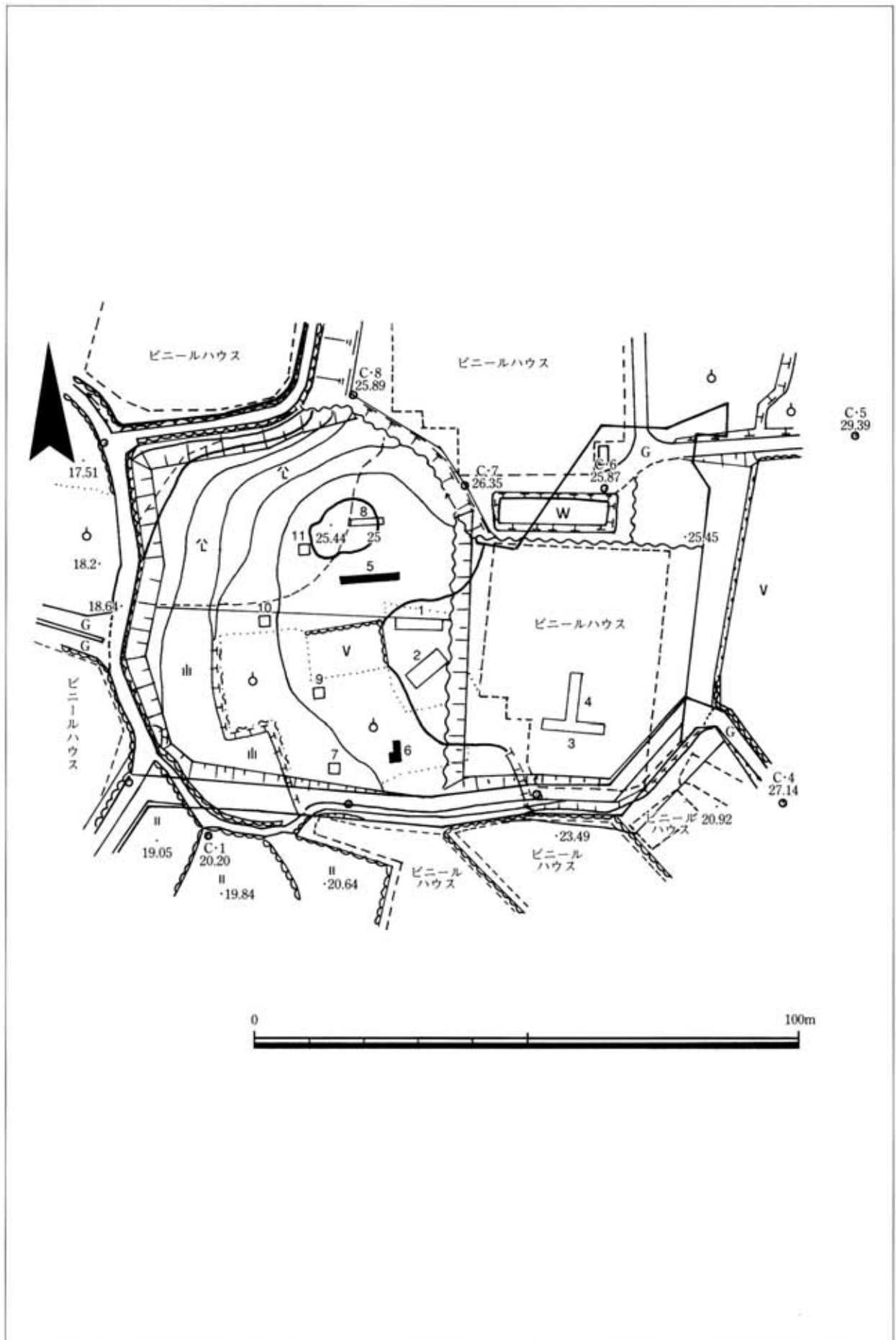


図30 唐津市唐津東部地区 [川頭地区] トレンチ配置図

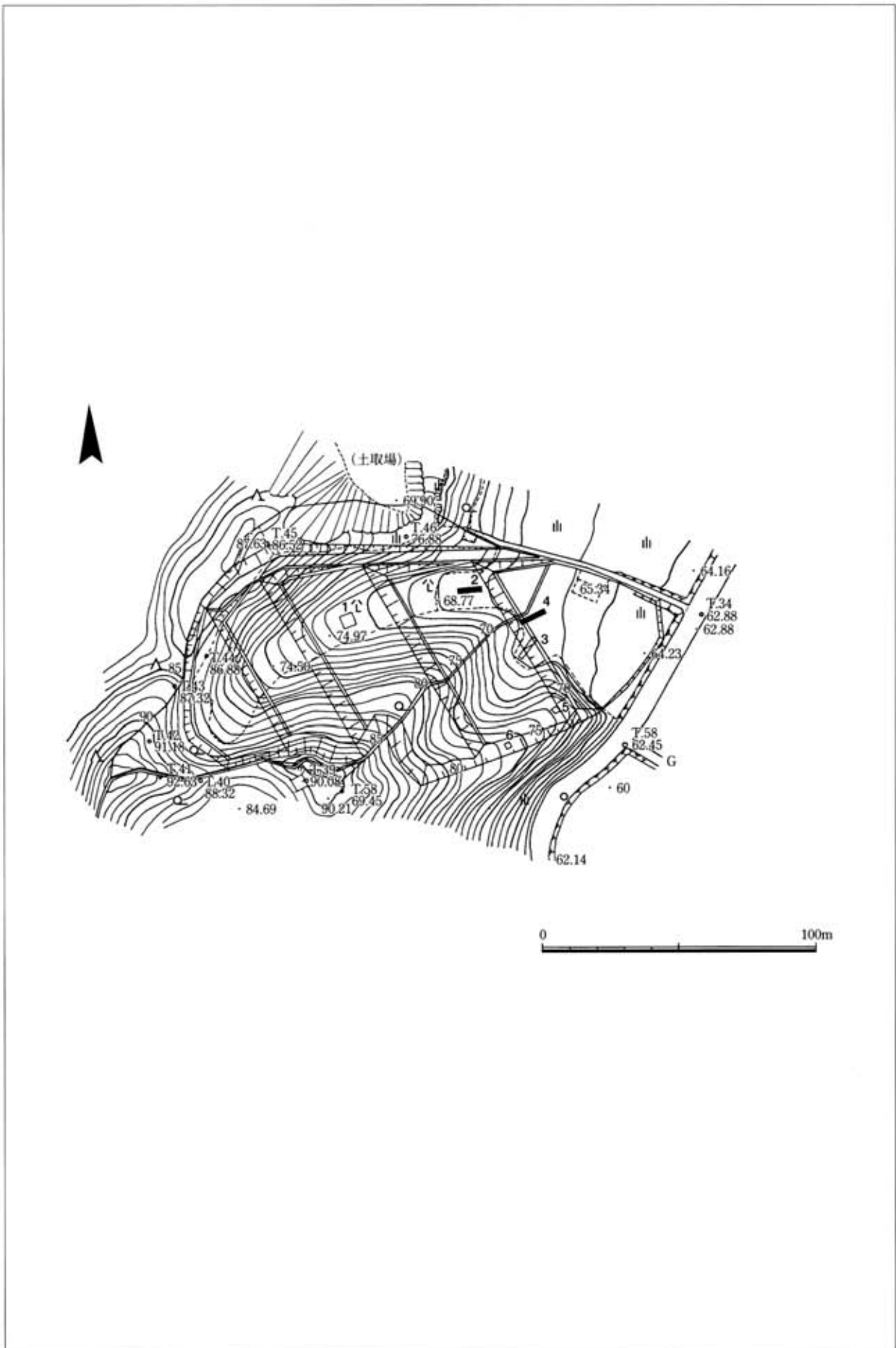


図31 唐津市唐津東部地区〔外原地区〕トレンチ配置図

土の上に、第2トレンチ付近の高まりを削平し、平坦部を拡張した際のものと考えられる盛土も確認できた。第5トレンチで小穴1基、第6トレンチで土壇墓状の遺構1基を確認したが、上記の事由から遺構上部がかなりの削平を受けているものと思われ、いわゆる遺物包含層が存在せず、遺構の時期決定までには至らなかった。ただし、第5トレンチ周辺はミカン園となっており、トレンチの設定にかなりの制約を受けたため、樹木の伐採をしたうえでの全体的な調査を行わないことには、遺跡の全体像を把握することは困難に思われる。また、当地区は古官道沿いに想定されている地点でもあるため、保存協議が必要と思われる。

外原地区(図31)は、唐津市東部と浜玉町にまたがる鏡山から、東に延びる丘陵部と丘陵間の谷部に立地する。丘陵部、谷部ともに地質は主に風化の進んだ花崗岩からなり、表土部分は、赤褐色～黄褐色土の状態を呈する。今回の掘削したトレンチの一つからは、当調査区に近接する赤野遺跡で確認された阿蘇Ⅳ火山灰に似た層を確認した。これにより、当調査地区の形成に阿蘇Ⅳ火山灰が何らかの影響を与えたことが窺える。周辺では、当調査区と道を挟んだ北東隣に、古墳時代の住居跡1基と阿蘇Ⅳ火山灰が確認された赤野遺跡、また、同じく北東約700mの地点に西九州自動車道建設に伴う調査が行われている岩根遺跡が所在する。

調査は、谷部では掘削機を使用して2m×10mを基本としたトレンチを掘削し、遺構・遺物の有無の確認、写真撮影・略実測を行った後埋め戻した。丘陵部については、尾根が狭く斜面も急であったため、人力で同様の調査を行った。全体では、掘削機で4ヶ所、人力で2ヶ所、計6ヶ所のトレンチの掘削を行った。

今回の調査では、丘陵から谷部への落ちがけ付近で炭窯状の遺構を2基確認し、トレンチの一つからはプライマリーな堆積層ではないものの、阿蘇Ⅳ火山灰の堆積層(二次堆積)が確認された。遺物は出土していない。

炭窯状遺構2基のうち、1基は土壇壁の数カ所に板石状の礫を貼り付けており、この礫および壁体は被熱し、赤化している。もう1基には、板石状の礫は確認できなかったが、一部赤化した箇所と埋土内に多量の炭化物を含む。また、両遺構とも径0.5～1cmの硬く焼けた土片が埋土中に多く入る。

前者の遺構は、近接地で調査中の岩根遺跡で確認された炭窯に酷似しており、確認地点の立地条件もほぼ同じ様相を呈することから、同様の遺構であると思われる。

今回は、トレンチの設定場所等の関係から鉄滓および製鉄関連の遺構は確認できなかったが、炭窯が確認された箇所から、さらに北側に向かって急激に落ち込むことが確認されており、現段階の岩根遺跡の調査成果等を鑑みても、炭窯が立地する地点からもう一段落ちた箇所に製鉄関連の遺構が存在する可能性は高いと思われる。したがって、当地点については保存協議が必要である。

鶏ノ尾地区については、確認調査の実施が一部次年度に繰り越されたため、全体の確認調査実施後にまとめて報告したい。

Ⅲ. 平成10年度発掘調査の概要

1. 鷹取山遺跡 (TTY)

遺跡の所在地

三養基郡中原町大字原古賀

調査主体者

中原町教育委員会

調査期間

平成10年11月～11年3月

調査面積

820㎡

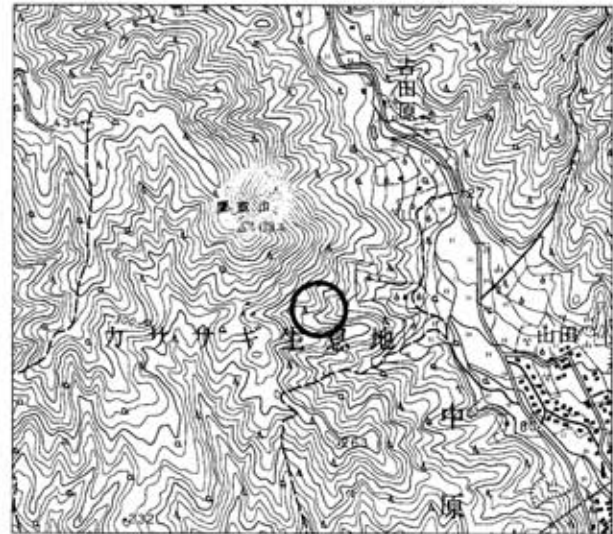


図32 鷹取山遺跡位置図 (1/25,000)

遺跡の概要

鷹取山遺跡は、脊振山系の鷹取山の中腹、東南に伸びる尾根上の標高220mから250mに立地する。調査区は尾根の斜面上に位置し、調査区の上には長さ30m、幅15mほどのテラスが広がっている。テラス上部から鷹取山山頂までは急斜面となっている。鷹取山山頂から麓一帯にかけては中世山城が存在する。山城の規模や時期は不明な点が多いが、遺構の残りは良好である。

調査は林道建設に伴って削平される部分820㎡(Ⅰ区、Ⅱ区)について実施した。

Ⅰ区の調査では、土壌、焼土塊、テラス、道路状遺構、ピットが検出された。土壌は楕円形のものも多く、埋土中に焼土や炭化物を含んでいる。焼土塊は床面が固く焼きしまっており、高熱を受けたことが予想される。3ヶ所について熱残留磁気の分析を行い、A.D.700±50年、A.D.740±50年、A.D.1000±100年の結果が得られた。テラスは、斜面を削り平坦面を作り出しているもので、最大のもは高さ2mあまり削っている。道路状遺構は、調査区北側に位置し、斜面を蛇行しながら削って道を作り出している。ただ、床面の硬化は見られなかった。

遺物は、須恵器の杯蓋・杯・長頸壺・高杯・甕、土師器の杯蓋・杯・碗・甕などが大量に出土している。特に調査区中央付近の斜面上からは上から投げられたような状態で大量に出土している。時期は8世紀から9世紀にかけてのもので、熱残留磁気の分析結果ともよく一致している。また須恵器の杯蓋の裏を使用した転用硯が数点出土していることが注目される。なお、鉄滓は全く出土しなかった。

Ⅱ区は、Ⅰ区に乗る尾根とは別の、南側の尾根上に位置する。調査は斜面の一部がテラス状になっている部分について実施したが、明確な遺構は検出されなかった。遺物は土師器が1点出土したのみである。しかし確認調査の際にはⅡ区に乗る尾根上からも土師器の杯などが出土しており、古代の遺構が広範囲に広がっていることが予想される。

今回の調査では、山中における古代の遺跡というこれまでにあまり類例のない遺跡を調査することができた。この遺跡は、立地条件や、転用硯の出土、大規模な土木工事を行っている点から一般的な集落とは考えにくい、なぜこのような山中で生活を行っていたのかは不明である。考えられる性格としては祭祀関係の遺跡が想定されるが、太宰府市の宝満山の調査例では出土する遺物は土師器の碗・杯類が主であり、鷹取山遺跡の出土遺物の様相とは異なっている。また尾根上から東側は見通しがきくが、西側には全くきかないため烽火には不向きであろう。遺跡の性格付けについては今後の周辺調査の進展を待ちたい。

(太田 睦)



図版3 鷹取山遺跡

1. I区全景

2. I区テラス状遺構

3. I区焼土壇

4. I区斜面遺物出土状況

5. II区全景

2. 森田遺跡（略号：MRT）

遺跡の所在地

佐賀市鍋島町大字森田

調査主体者

佐賀市教育委員会

調査期間

平成10年7月7日～10月15日

調査面積

1,000㎡

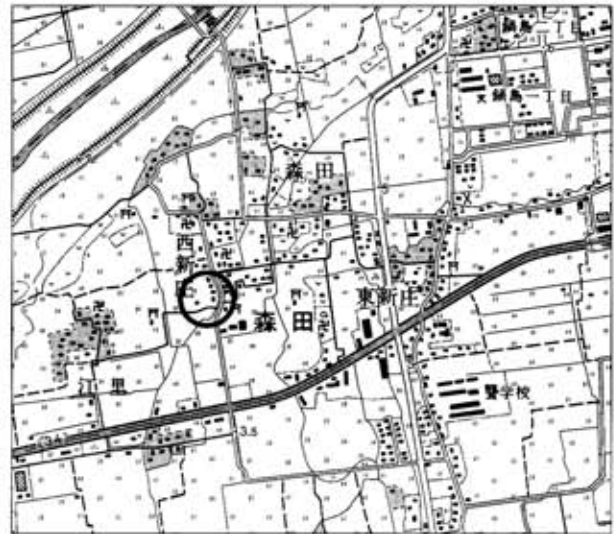


図33 森田遺跡位置図（1/25,000）

遺跡の概要

森田遺跡は佐賀市中部、嘉瀬川東岸の沖積低地に立地し、標高は3.2mを測る。調査地は現況集落西側に隣接する水田部に位置する。本遺跡内では、現況集落東南部で平成9年度に森田遺跡1区の調査を実施し、平安時代後半から鎌倉時代を主体とする集落跡と考えられる遺構を確認している。また、調査区の周辺では江頭遺跡1～9区や大西屋敷遺跡1区において平安時代末期～鎌倉時代及び室町時代の集落跡を検出している。これらの集落遺跡は今回調査区から1.5km内に点在し、調査地に隣接する1181年（養和元年）建立と伝えられる新庄神社の存在とともに、古代末から中世における周辺一帯の様相を断片的ではあるが提示している。

調査は水路工事で掘削される1,000㎡（2～5区）で実施し、平安時代末期～近世の遺構・遺物を確認した。

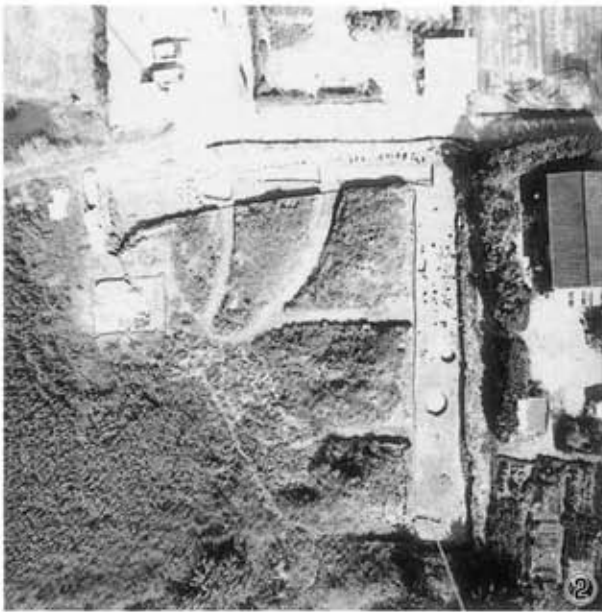
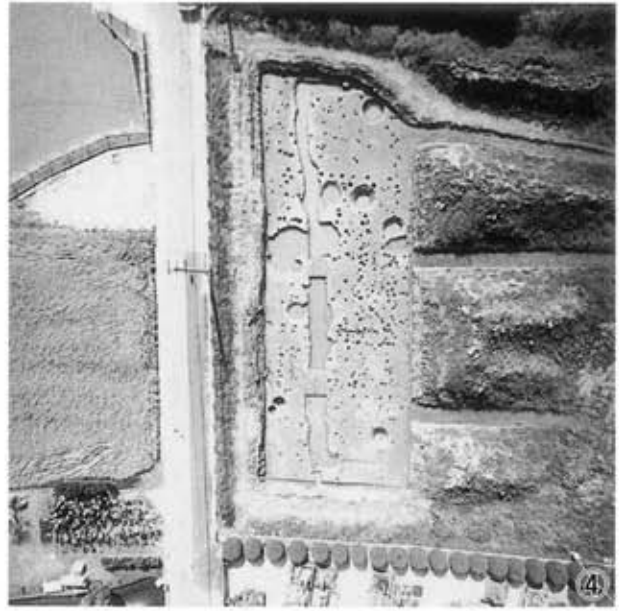
平安時代末期～室町時代前半期までの遺構は、掘立柱建物・井戸・木棺墓・土塋などを検出している。

掘立柱建物は柱間距離が近似し桁行方向を東西にとる2×4間及び2×5間の総柱建物と、桁行方向を南北にとり床面積をほぼ同じくする1×3間及び2×3間の建物がそれぞれ複数棟存在する。これらは建物配置関係から相関関係にあったのではないかと考えている。

井戸は径2m以上の比較的大型のものと、径1.5m以下の小型のものが認められた。大型の井戸は遺構断面が二段堀の形状で、内部には井戸枠を有しているものが多い。遺物は土師器、瓦器、陶磁器の皿や碗などのほかに短刀が出土している。短刀は室町時代以降に製作された古刀に多く認められる丸棟、反と茎の形状から判断して大刀を短刀に転用した可能性が高い。また、井戸底面で鹿の頭部骨が出土したものがあり、井戸廃棄時の祭祀に用いられたのではないかと考えている。小型の井戸は遺構断面が素堀りの形状で、井戸枠を有しているものは少なかった。遺物は大型の井戸に比べて、土鍋や播鉢の破片が多く出土する傾向が認められる。井戸壁面に寄り掛かるように、犬と思われる獣骨が一体分出土しているが、出土状態から判断して廃棄後の井戸内へ転落したものと考えている。

木棺墓は1基確認し、内部には人骨と木棺底板が残存し、人骨は仰臥屈葬で、北面に頭部を向けていた。人骨の残存状況が悪く、埋葬者の年齢、性別などの特徴を明確に断定することはできないが、寛骨の形態や歯が比較的摩耗していることから、埋葬されたのは成人女性で、身長は145cm程度であったのではないかと考えられている。遺物は、棺上に供献されたと思われる土師器の小皿と杯が数点出土している。

室町時代末期から近世の遺構は、溝・土塋を確認した。溝は矩形を呈し、調査区外に近接して走る現況水路と方向や幅をほぼ同じくしており、現況の集落形態の成立過程を考える上で良好な資料となった。（中野 充）



図版4 森田遺跡

1. 2区土壙遺物出土状況
4. 4区全景

2. 3区全景
5. 4区井戸獣骨検出状況

3. 3区木棺墓人骨検出状況
6. 4区井戸完掘状況

3. 上九郎遺跡（略号：KAR）

遺跡の所在地

佐賀市金立町大字薬師丸

調査主体者

佐賀市教育委員会

調査期間

平成10年7月6日～7月13日

調査面積

300㎡



図34 上九郎遺跡位置図（1/25,000）

遺跡の概要

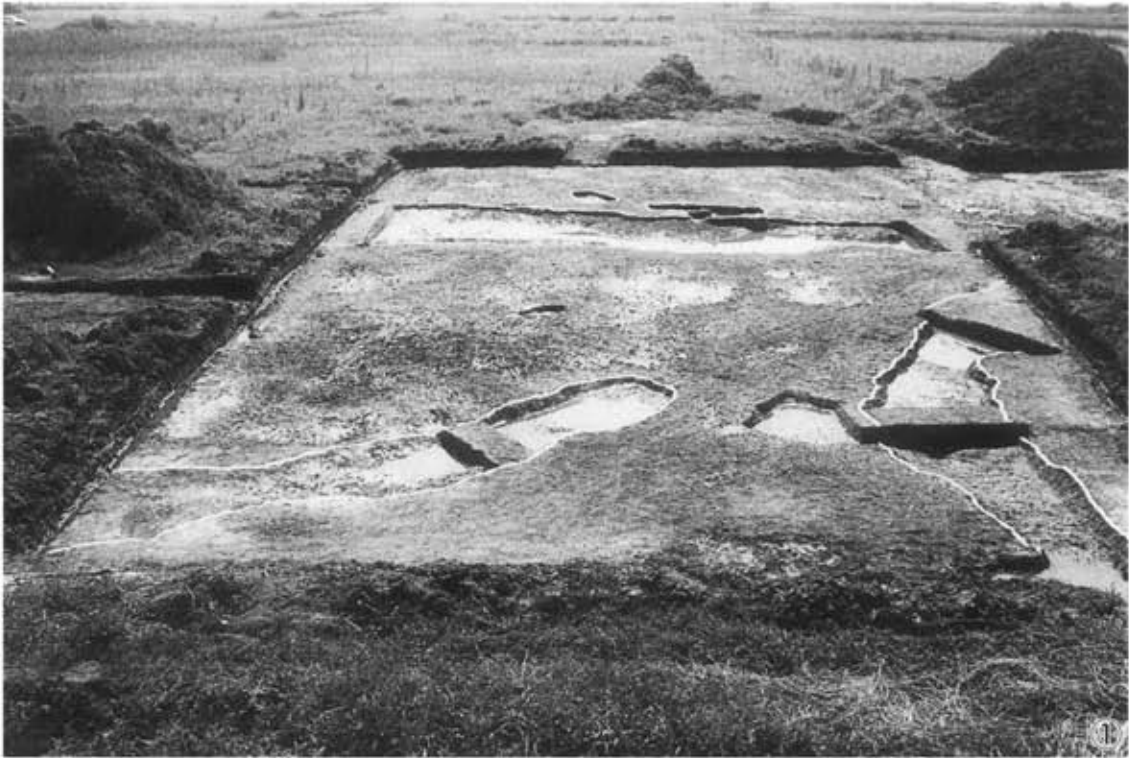
上九郎遺跡は、佐賀市北部の脊振山系から南へ舌状に派生する洪積台地が終息し沖積低地に移行する境界部に近接する低地上に立地し、標高3.5mを測る。

本遺跡の周辺では、縄文時代早期の塞ノ神式土器や石器の多量の遺物群と集石遺構や埋葬人骨を確認した東名遺跡、弥生時代早期から前期前半の遺物を検出した薬師森遺跡、弥生時代後期前半を中心に100棟以上の掘立柱建物建物が確認され大規模な集落の存在が想定される村徳永遺跡、弥生時代中期後半から古墳前期にかけての集落跡が検出された下和泉一本椎遺跡、古墳時代前期の方形周溝墓が検出された東千布遺跡・西千布遺跡・古村遺跡、平安時代前期の集落跡の一部と考えられる遺構群が確認され「田戸」と墨書された土師器杯が出土した友貞遺跡、室町時代から江戸時代の集落跡を検出した東淵遺跡・妙常寺北遺跡・妙常寺南遺跡、龍造寺氏や鍋島氏の配下であった空閑三河守入道の館跡と推定されている淵川城跡等の数多くの遺跡が存在している。

調査は、水路工事で削平される部分300㎡（1区）について実施した。

発見した遺構は、溝、土壇、小穴である。溝は3条確認し、その中の1条は、幅2.5～4.5m、深さ0.4～0.6mでほぼ真北方向に南北に走っていた。遺構の断面は二段掘りの形状で、埋土は暗灰色粘土を基調とし、自然堆積による埋没状況を示していた。埋土からは弥生時代後期所産と考えられる土器の微細な破片が数点出土しているものの、遺構の所属時期を判断しうる出土遺物は得られていない。ただ、調査区北部で平成10年度に実施した金立東部地区農業基盤整備事業に伴う試掘調査結果および隣接する薬師森遺跡2区の調査結果、南北方向に走行する同様の溝を複数条確認しており、これらの溝との関係について、今後実施される周辺における調査成果を待って再検討してみたい。

（中野 充）



図版5 上九郎遺跡

1. 全景

2. 南北走向溝検出状況

4. 若宮遺跡1区（略号：WKM）

遺跡の所在地

佐賀市兵庫町大字若宮

調査主体者

佐賀市教育委員会

調査期間

平成10年7月～10月

調査面積

1,250㎡



図35 若宮遺跡1区位置図（1/25,000）

遺跡の概要

若宮遺跡は佐賀市東部に位置し、佐賀市が含まれている佐賀平野中部地区は北側から順に洪積台地群、山麓低地、中間低地、臨海低地が展開し、若宮遺跡は中間低地に立地する。調査区の現況は水田で、標高3.0m～3.5mを測り、調査区周辺はクリークが縦横に走り、特徴的な景観を呈する。

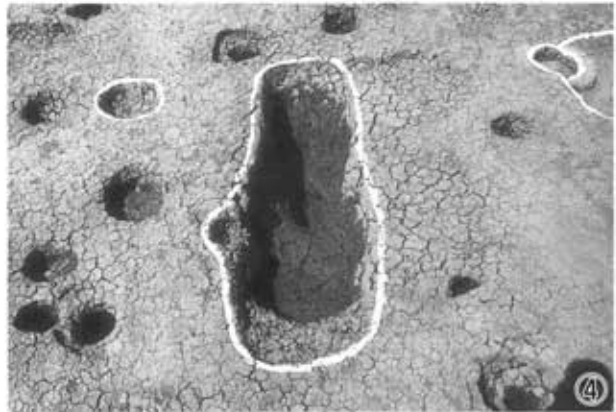
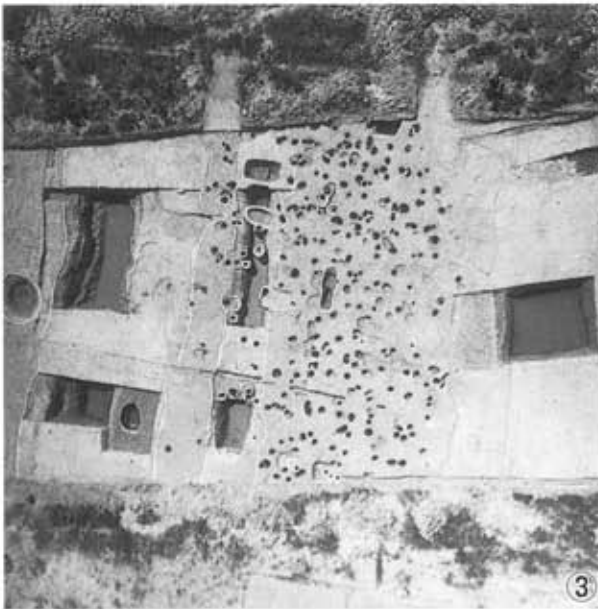
若宮遺跡は平成8年度の農業基盤整備事業に伴う確認調査で周知化された遺跡で、今回の調査が初めてである。本遺跡の周辺には、南側に近接して中世の遺跡として周知化されている伝国請寺および牟田館跡、約400m南側に瓦町遺跡、約500m西側に東淵遺跡・妙常寺北遺跡および妙常寺南遺跡が存在する。瓦町遺跡では平成2年度に本調査が実施され、弥生時代中期後半の集落を検出し、土壌から漆器の高坏が出土した。妙常寺北遺跡では平成7年度に本調査が実施され、中世～近世の集落を検出し、妙常寺南遺跡では同じく平成7年度に本調査が実施され、17世紀～18世紀の集落を検出した。

調査は、水路工事で掘削される1,250㎡（1・2区）について実施した。ここでは、中心となる1区について述べる。

1区の調査では、中世後半～近世前半の掘立柱建物・土壌・溝および小穴を検出した。掘立柱建物は4棟検出し、柱間は梁行1間～2間、桁行2間～3間程度で、主軸は南北方向または東西方向に近い。これらの建物は一部重複関係にあるものも存在する。土壌は数基検出し、調査区西側で検出した土壌の平面形は不整形長方形を呈し、主軸は南北方向に近い。埋土の堆積状況の詳細は不明であるが、形状から墓墳である可能性も考えられる。この土壌が墓であるならば、屋敷墓である可能性も考えられる。溝は4条検出し、いずれも南北方向に走っている。これらの溝で主要な3条の溝については、東側の溝が幅約5m、中央の溝は幅約2m、西端の溝は西側が調査区外に展開するため、幅5m以上を測る。これらの溝と柱穴および小穴の分布・切合関係をみると、（1）東端の溝より東はほとんど分布しない（2）東側の溝および西端の溝より後出するものはほとんどない（3）中央の溝より先出するものも後出するものも存在する。以上のことから、集落は（1）東側の溝および西端の溝より先行し、中央の溝より後出するもの（2）中央の溝と同時または同時に近いもの（3）中央の溝より先出するもの、という最低3時期に区分できるものと考えられる。

今回の調査によって、中世後半～近世前半の集落の一部に相当することが判明したが、西端の溝のように現存するクリークと重複するものも存在する。前述のように、調査区周辺は現況のクリークが縦横に走る特徴的な景観を呈し、当時と現代の集落のつながりを考えるうえで興味深い資料であると思われる。

（楠本 正士）



図版6 若宮遺跡1区

1. 遠景 (南西から)
2. 全景
3. 中心部
4. 土塙 (南から)
5. 溝 (北から)
6. 溝 (北から)

5. 若宮遺跡 3・4区 (略号: WKM)

遺跡の所在地

佐賀市兵庫町大字若宮

調査主体者

佐賀市教育委員会

調査期間

平成10年9月～12月

調査面積

2,000㎡

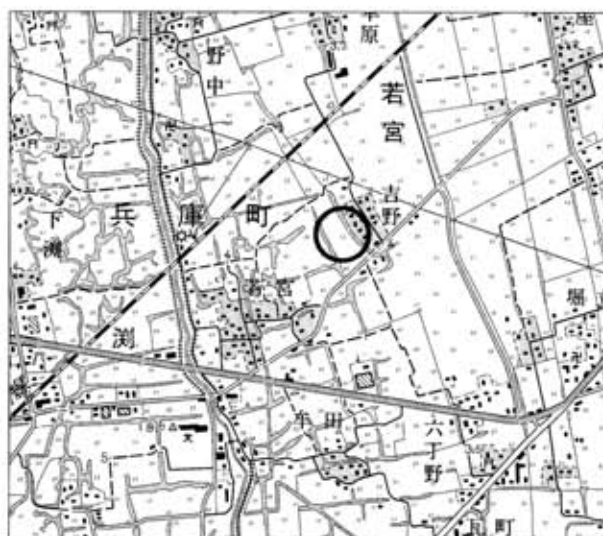


図36 若宮遺跡 3・4区位置図 (1/25,000)

遺跡の概要

遺跡は金立山麓から南に舌状に延びる洪積低丘陵以南に広がる沖積低地上に立地する。地勢的には巨勢川の東岸東方に位置し、標高は3m前後を測る。調査区一帯は農地で以前から水田として土地利用されており、基盤整備後も同様の土地利用がなされる予定である。また一帯は縦横にクリークが走り、佐賀平野の低平地に多い、近世以来の田園風景が見られた。しかしその景観は基盤整備によって著しく変化している。

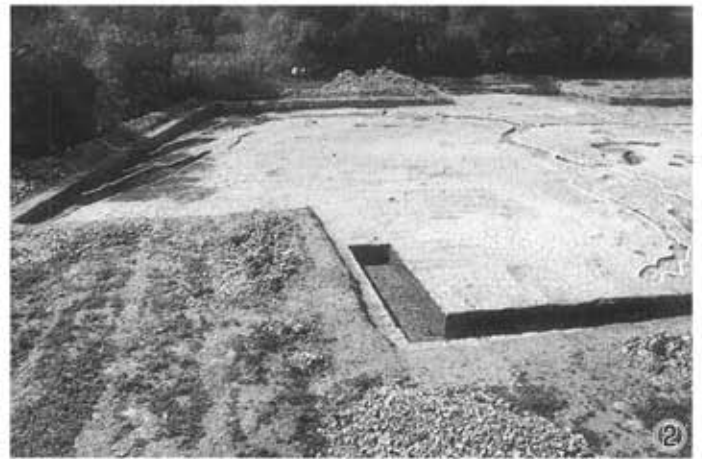
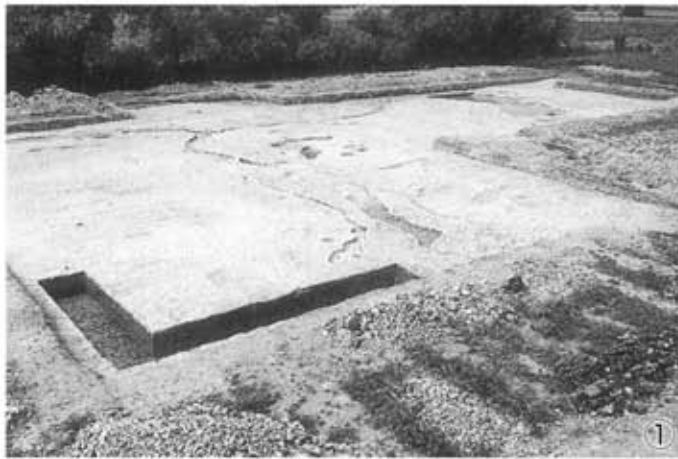
若宮遺跡は平成8年度の確認調査で初めて遺跡の存在が確認され、周知化された遺跡である。金立町大字薬師丸～国道34号バイパスに至る間の兵庫地区は遺跡が非常に希薄な地域として認識されていたが、平成10年度までに約550,000㎡が遺跡範囲として周知化されている。また平成10年度の確認調査では、若宮遺跡北側隣接地一帯でも遺跡の存在が確認され、新たに約380,000㎡が野中遺跡として周知化されるに至っている。なお周辺地域では兵庫西部地区の東淵遺跡と妙常寺北・同南遺跡でそれぞれ中世の集落跡が確認されている。

若宮遺跡3区では、土壌約5基、溝約10条を検出した。遺構の遺存状況は比較的によくなく、かなり削平を受けていた。建物等の遺構は確認しなかったが、一部の溝には矩形にめぐる区画溝と考えられるものがあり、居住に関わる遺構と推定する。こうした状況から3区は集落の一部と考えるが、狭少な面積の調査であることもあって不明な点が多い。また出土遺物は少なく、遺構の時期決定を困難にしているが、遺構の検出状況や調査区周辺の状況から中世が主体であると考えられる。

4区は溝9条、土壌1基を検出した。溝のうち調査区北部検出の1条は弥生時代と考えられ、幅0.9～1.2m、深さは0.1～0.15mを測る。遺存状況は非常によくはないが、外湾刃半月形石庖丁1点と黒曜石製の打製石鎌2点が出土している。石鎌2点は流入品と推定する。層位的にも調査区内ではもっとも古い遺構である。調査区南部で検出した溝2条は東西方向の溝で、もっとも南のSD4005溝は幅1.2m前後、深さ0.3m前後、その北側のSD4006溝は幅1.6m、深さ0.8～1.0mを測る。遺物は皆無に近いが、層位から遺構の年代は中世と推定する。

他の6条は近世の溝であるが、幅の割には掘削の深さが深く、深いところで1.0～1.8mを測る。溝の用途については判然としないが、遺物は近世の陶磁器を多数検出した。

(三代 俊幸)



図版7 若宮遺跡3・4区
 1. 3区全景(南東から)
 2. 3区区画溝(東から)
 3. 4区全景
 4. 4区S D 4005溝検出状況
 5. 4区S D 4006溝検出状況
 6. 外湾刃半月形石包丁出状況

6. ハツ溝遺跡

遺跡の所在地

多久市多久町字ハツ溝

調査主体者

多久市教育委員会

調査期間

平成10年5月～平成11年3月

調査面積

5,200㎡



図37 ハツ溝遺跡位置図（1/25,000）

遺跡の概要

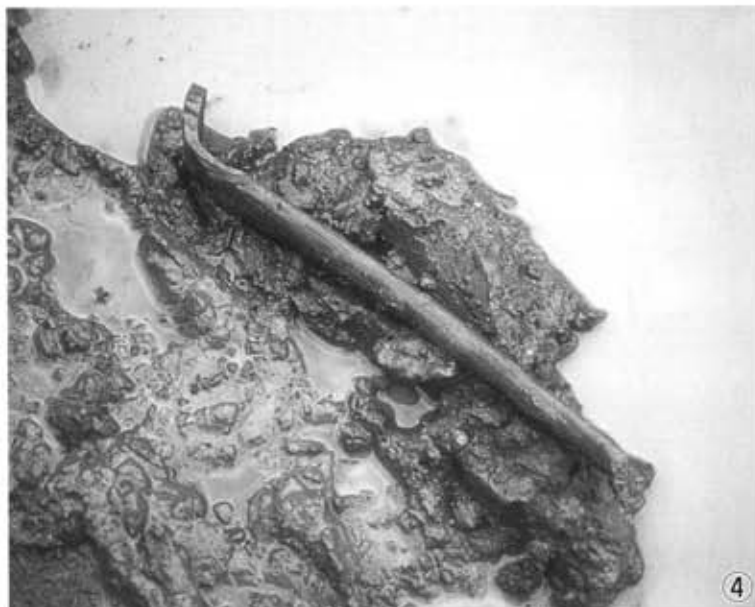
ハツ溝遺跡は牛津川上流の自然堤防帯にある。隣接して九州横断道開発に伴い発掘調査された撰分遺跡（弥生時代～近世）がある。

ハツ溝遺跡では調査の結果、弥生時代から古墳時代にかけての遺構・遺物が発見された。遺構は柵や水路が検出された。水田に伴う施設と推定される。貯蔵穴も見つかリ、中の種実は、ほとんどがコナラ属アカガシ亜属であった。（自然科学分析で種実の同定を行った。）遺物は土器・石器・木製品が多数出土した。木製品は、もろいながらも原形をよくとどめており、食器（匙等）・農具（鋤・鋤等）・建築材（ネズミ返し）等が多数出土した。木製品が大量に出土した水路は調査区外に続いており、遺跡が広範囲に及ぶことをしめしている。土器は高坏や瓶等が出土した。

今回の調査では遺跡周辺の当時の環境復元のため自然科学分析も行った。溝の覆土よりプラントオパールが検出され、遺跡周辺で稲作が行われていた可能性が示された。また遺跡周辺はシイ属やイスノキ属など照葉樹林が分布しており、流路周辺はススキ属やチガヤ属の生育する比較的開かれた環境であったことが判った。

平成9年度からの継続調査で撰分遺跡の地点を居住域とする遺跡（ハツ溝遺跡と撰分遺跡は本来1つの遺跡である）の全体像が明らかに成りつつある。調査は平成12年度まで広範囲にわたり継続される予定であり、遺跡の全体像がさらに明らかになるだろう。

（岩永 雅彦）



図版8 ハツ溝遺跡

1. 竹製編みカゴ出土状況
2. 木製又鍬出土状況
3. 木製鋤出土状況
4. 木製匙出土状況

7. 菅牟田西山遺跡（略号：SMN）

遺跡の所在地

唐津市菅牟田字西山

調査主体者

唐津市教育委員会

調査期間

平成10年4月17日～8月28日

調査面積

5,936㎡

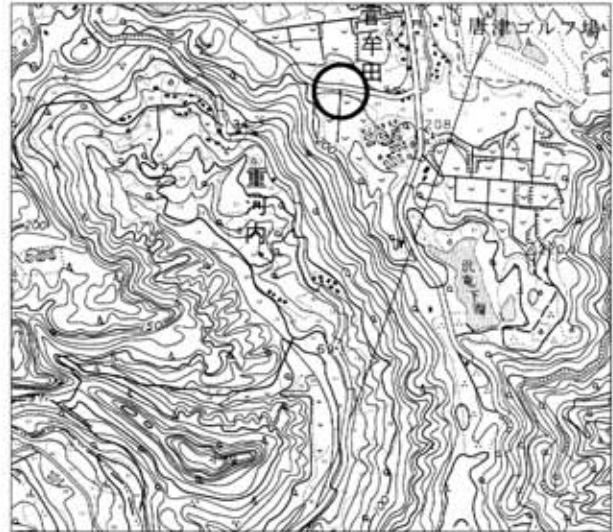


図38 菅牟田西山遺跡位置図（1/25,000）

遺跡の概要

菅牟田西山遺跡は、唐津市の西側に広がる標高約150～200m前後の準平原状の台地である通称上場台地（東松浦玄武岩台地）の南部に位置する。調査区は唐津市の平野を南北に流れる松浦川の支流である山田川と田中川の最上流周辺にあたる。東側は上場台地と地質の違う花崗岩の風化土壌で形成される唐津市南部の山地へとつながり平野に至る。

本遺跡の周辺には、菅牟田黒龍遺跡、菅牟田荒谷遺跡、菅牟田Ⅰ～Ⅴ遺跡、山田団六遺跡、竹木場辻遺跡、竹木場前田遺跡、杉谷溜Ⅰ・Ⅱ遺跡、風連Ⅰ・Ⅱ遺跡など旧石器から弥生時代にかけての遺跡が所在する。

今回の調査区は菅牟田集落の西側の丘陵が北から南に緩やかに傾斜する部分にあたる。平成3年度にはこれより南側の調査が行われている。

今回の調査では、先ず、昭和初期頃に耕地化された現水田を一気に掘り下げ、当時の畑の区画がわかる面に達した。畑は溝状に南北と東西方向に大きく掘り込んで区画されていた。この溝状の覆土には近世以降を中心とする陶磁器等が多量に含まれていた。

調査区東側では丘陵の北半分は耕地化による削平を受けていた。南半分は削平を受けておらず、旧石器時代の遺物包含層を検出した。遺物はナイフ形石器等が出土した。

調査区中央部付近では、水田形成時に上部が削平された江戸初期頃と考えられる土壌墓3基を検出した。3基の内東側の2基には覆土中に副葬された遺物が含まれていた。その内の1基から完形品ではないが陶器の皿3点が出土した。別の1基からは染付の碗の完形品が1点出土した。

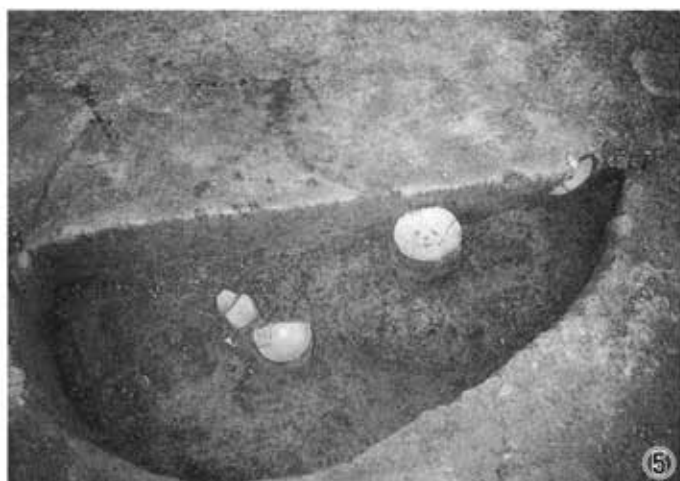
調査区の中央部からすぐ西側では縄文時代早期の押型文土器や石鏃等が出土している。また、コブシ大以上の安山岩の大型素材も数点出土している。

調査区の最も西側は一部が上場台地の特徴的な青紫色～赤紫色の地山まで削平されていた。削平を受けていない部分では旧石器から縄文時代の遺物の流れ込みが検出された。

今回の調査によって、調査区は東側が旧石器時代、西側が縄文時代を中心とし、中央部に近世の土壌墓が遺存する時代の重複する遺跡であることがわかった。調査区東側で出土した旧石器時代の遺物はナイフ形石器や台形石器等である。西側は縄文時代早期の遺物を中心とするものである。

上場台地南部の菅牟田地区の旧石器時代から縄文時代の遺跡の状況を知る貴重な資料を得ることができた。

（内田 孔明）



図版9 菅牟田西山遺跡

1. 遠景

2. 作業状況

3. 遺物出土状況

4. 遺物出土状況

5. 遺構掘り下げ半裁状況

6. 遺構掘り下げ状況

8. 枝去木分校入口遺跡（略号：EBI）

遺跡の所在地

唐津市枝去木字仮又

調査主体者

唐津市教育委員会

調査期間

平成10年10月2日～10月30日

調査面積

170㎡



図39 枝去木分校入口遺跡位置図（1/25,000）

遺跡の概要

枝去木分校入口遺跡は、唐津市の西側に広がる標高約150～200m前後の通称上場台地（東松浦玄武岩台地）の中央部よりやや北側に位置する。唐津市西部より玄海町方面を流れる有浦川の源流域にあたり、最奥部の丘陵上に立地する。

本遺跡の周辺には、枝去木山中遺跡、馬部甚蔵山遺跡、野中遺跡、牟田辻遺跡、辻遺跡、枝去木伍町第1・第2遺跡、ララシロ田遺跡、前田Ⅱ遺跡、中川原遺跡、五反田遺跡、丸田遺跡など旧石器から縄文時代にかけての遺跡が存在する。ナイフ型石器、台形石器、細石核、細石刃などが出土した旧石器時代遺跡で知られている原遺跡もこの周辺に存在する。

調査は、道路拡幅工事により削平等を受ける約170㎡について、丘陵の削平される部分をA地区、A地区から南側の現有道路にあたる丘陵部をB地区として実施した。

A地区は、東から西に延びる丘陵を削平して作られた現有道路が拡幅のためにさらに約2m幅で南北方向に広がるために調査したものである。小範囲の調査で、出土した遺物の数も少ないが縄文時代早期の押型文と見られる土器の小片や削器、剥片等が出土した。また、磨製石斧が1点出土しているが石材、時期ともに現時点では不明である。

B地区はA地区より約20m南東に位置し、A地区の丘陵に平行するように北東側の谷部にかけて傾斜する。調査区は耕作用道路として作られたときに改変を受けたものかB地区西側は削平を受けている部分も多く、黒曜石や安山岩の剥片、近世以降の陶磁器が出土したが流れ込みによるものであった。

今回の調査では、B地区は耕作等により削平されており、遺跡の広がりには確認されなかった。

調査の結果、A地区周辺の表土下層の黄褐色土層（安定した遺物包含層である黄褐色土）は玄武岩質安山岩の風化礫（青紫色礫でオンジャクと通称されている）の地山に挟まれた比較的薄い堆積であることが判った。

A地区は東から西に延びる丘陵の縁辺部に当たる。調査区の緩やかな丘陵部分の表土下層の黄褐色土層から少量ではあるが遺物が出土している。遺跡は丘陵の東側へと広がっているものと考えられる。周辺は耕作化等により大きく地形が改変されたところが多く、小範囲の調査ではあったが、この地区での遺跡の貴重な資料を得ることができた。

（内田 孔明）



図版10 枝去木分校入口遺跡

1. A地区全景

2. A地区掘り下げ状況

3. A地区土層堆積状況

4. A地区遺物出土状況

5. B地区全景

6. B地区掘り下げ状況

IV. まとめ

平成11年度の農業基盤整備事業等にかかる文化財確認調査を、佐賀東部地区の中原町・東脊振村・神埼町の2町1村の4地区、佐賀西部地区の佐賀市・大和町・三日月町・多久市・富士町の2市3町の11地区、佐賀南部地区の武雄市・有明町の1市1町の2地区、佐賀北部地区の伊万里市・浜玉町・北波多村・西有田町の1市2町1村の8地区、佐賀上場地区の唐津市の5地区で実施した。

また、平成9年度の確認調査結果の協議に基づき実施した発掘調査（本調査）は、中原町・佐賀市・多久市・唐津市の8遺跡である。以下、平成10年度の確認調査について、地区毎に

（1）佐賀東部地区

中原町：九千部山横断線・三養基地区、東脊振村；佐賀東部地区、神埼町：日出来地区の4地区で遺跡の存在を確認した。

九千部山横断線地区では、昨年度の調査により確認していた遺跡の広がり等を把握することを主眼に追加調査として実施した。その結果、新たにテラス・土壇・小穴・焼土等を検出し、遺物は須恵器・土師器が出土した。時期は8～9世紀のもので、あらためてこの地点に当該期の遺跡が存在することが確認されたが、祭祀に関わる遺跡であるかどうかを決定づけるだけの資料は得られなかった。三養基地区では、溜池状の遺構と弥生土器の破片数点を検出したが、調査範囲が狭小であったことなどから、時代及び遺構の性格を明確に把握するには至らなかった。東脊振村の佐賀東部地区では、明確な遺構は確認できなかったが、出土遺物から、弥生時代後期を中心とした非常に遺物密度の高い遺物包含層の存在を確認した。神埼町の日出来地区では、弥生時代の甕棺墓・土壇、中世の溝等の遺構が検出され、弥生土器の甕・壺等、土師器の椀・杯等の遺物が出土した。

（2）佐賀西部地区

佐賀市：金立東部地区・兵庫北部地区・鳥越溜池・幹線水路徳永線の4地区で遺跡の存在を確認した。

金立東部地区では、溝・土壇等から弥生早期及び中期の甕の口縁部片、平安末から中世の土師器小皿の破片が出土したため、石土井遺跡の範囲を拡大することで周知化した。兵庫北部では、調査区南西側において弥生時代の遺構を確認したが、中世～近世の遺構密度が前年度の調査区より希薄であることから、当該期の遺跡の主体が今年度の調査区より南側の若宮周辺であると推定される。鳥越溜池では、改修地が国史跡の帯隈山神籠石の指定地に当たることや安全面・利用面などの諸理由から、レーダー探査・電気探査による非破壊的方法による遺構の有無を確認する調査を行った。この結果、列石・土塁の開口部・水門跡の存在が推定されたため、工法等の検討・協議を行い、堤体が開削された痕跡のある部分に樋管を通す位置をずらし、工事に際して発掘調査を行った。なお、工事に際しての発掘調査は10月に佐賀市教育委員会により実施され、列石の一部が確認されている。幹線水路徳永線では、成富兵庫茂安の治水事業関連が考えられる用排水路の横断面の調査を行った。土層の断面観察から、焼原川に平行して両側に水路を開削し、その土を盛り上げた状況が確認された、遺物等は出土せず、水路の時期決定については明確にし得なかった。

（3）佐賀南部地区

有明町の深浦地区で、工事による間接的な影響に備えて彫り込みのある大岩について記録保存調査を行った。

彫り込みは、中央の駒形を呈す彫り込みの両脇に観音開きをした扉部をイメージする長方形の彫り込みがあるので、彫り込み自体に刻銘等がなく周辺に遺物の散布もないことから、彫り込みの年代や性格について明確にすることはできなかったが、石造物に精通された方から仏龕とよばれるものではないかとの御教示を得た。

(4) 佐賀北部地区

北波多村の岸岳地区で岸岳城跡に関する、堀切・石垣・曲輪等の遺構が検出され、瓦や陶磁器等の遺物が出土した。

(5) 佐賀上場地区

唐津市：上場Ⅲ期地区（東山地区）、唐津東部地区（桜崎地区・川頭地区・外原地区）の4地区で遺跡が確認された。

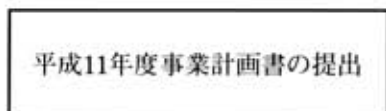
東山地区では、黒曜石や安山岩の剥片、石器の加工途中とみられるもの等が出土し、旧石器時代～縄文時代の遺物包含層が良好に遺存している状況が確認されたため、東山Ⅰ遺跡の範囲を拡大し周知化をはかった。桜崎地区では、支石墓状の遺構2基、中世の土壌墓2基、製鉄関連遺構1基を検出し、土師器片・須恵器片・黒色土器片・青磁碗・青磁片・陶磁器片・鉄滓等が出土した。支石墓状の遺構2基のうち1基（SX02）については、しょう石の下に広がると思われる遺構の端部を検出した。川頭地区では、土壌墓状の1基、小穴1基を検出し、近世～現代の陶磁器片数点が出土した。外原地区では、遺物の出土はなかったが、近接する岩根遺跡から検出された製鉄関連遺構に伴う炭窯に酷似した炭窯が2基確認され、立地状況もほぼ同じ様相を呈することから、同様の製鉄関連遺構が存在する可能性が示された。

以上、佐賀県内において平成10年度に実施された農業基盤整備事業に係る埋蔵文化財の確認調査に関する概要を付記したが、開発地域の様相の変化に伴い、地形的・期間的な制約から遺跡等の全体像の把握が困難になるケースも増え、開発計画との調整に要する協議等について、多くの手を煩わしているが、農林担当部局、土地改良区、市町村教育委員会の協力により、順調に運ぶことができた。関係者各位に感謝したい。

V. 資料

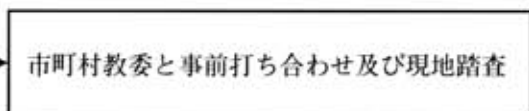
1. 農林業基盤整備事業等に係る文化財調査の進め方（平成10年度）

①平成10年9月1日



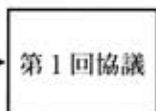
農林部から文化財課へ平成11年度
工事施工計画図等の提出（協議）

②9月中旬～10月上旬



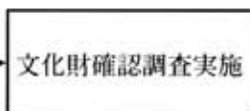
市町村教委と図面をもとに確認調査箇所
について打ち合わせ

③10月15日



九州農政局筑後川下流農業水利事務所
九州農政局佐賀中部農地防災事務所
農村計画課・農村整備課・森林整備課
林政課・流通園芸課・各農林事務所
市町村農林担当課・市町村教育委員会
文化財課と確認調査についての打ち合わせ

④10月下旬～12月上旬



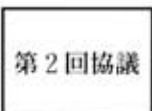
県費補助事業計画書の提出
ヒアリング（10月19日）

⑤11月下旬～12月上旬



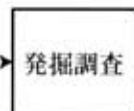
文化財所在地区の農林業基盤
整備事業等について協議
（数回）

⑥12月16日



平成11年度発掘調査箇所（面積）
の決定、発掘調査の時期調整

⑦新年度（平成11年度）



国庫補助事業
内示（4月）

◎国庫補助事業計画書提出（12月16日）

◎文化庁ヒアリング（平成11年2月4日）

2. 確認調査実施要領（平成10年度）

① 確認調査

(1) 準備

1. 発掘承諾書

文化財課へ1遺跡1通。工事担当課窓口。発掘承諾については、承諾書のみではなく、調査対象地権者への、調査に対する承認を充分得ておく。

2. 現地確認および確認調査計画

調査員・工事担当課立会のうえ、工事範囲（調査範囲）・掘削機搬入路・その他を検討し、確認調査計画書および関係書類を文化財課に提出。

3. 掘削機・作業員の手配等

人数の目安は、手掘りの場合 15人/日 程度

掘削機使用の場合 3人/日 程度

※作業条件：作業時間 8:30~17:00 日当 6,300円

※雇用予定発掘作業員の名簿を作成し、事前に文化財課に提出。

4. その他用意するもの

小型カメラ・野帳・移植ゴテ・尺・工事計画図面・文化財課指定の日誌・文化財課が用意するフィルム（35ミリ・カラーフィルム24枚撮り）等の調査記録類。

なお、作業員には各自シャベルを用意してもらうこと。

(2) 調査

1. 原則として、20m間隔で基盤目状に試掘坑を設定。

2. 試掘坑は、2m×2mを基準とする。

・耕作土と深土を区別する。

・土層、遺構面までの深さ、遺構・遺物の性格及び遺存状況等を記録する。

・埋め戻しは、深土を先に戻して十分転圧した後、耕作土を戻して復旧する。

3. 耕作物・道・水路等の取扱いに注意し、また工事担当課が必ず立ち会うこと。

調査においては、安全に充分心掛けること。

4. 掘削機使用及び発掘作業員の作業状況を必ず複数枚撮影すること。

② 調査記録の整理

1. 日誌 ・調査地区、試掘数、その他特筆すべきことを記録する。

・作業員数（例：7.5人）、掘削機台数（例：1.5台）

・文化財課へは、印のある原紙を提出すること。

2. 調査結果表は調査区毎にまとめる。

3. 試掘坑土層図、遺構が検出された場合は平面略図を作成する。

4. 図面 試掘坑の位置・番号・遺構面までの深さ（例：-45cm）・遺跡の範囲等を配布した工事図面に記入する。

5. 写真 フィルム（35ミリ・カラーフィルム24枚撮り）は文化財課で現像するので、確認調査後直ちに未現像のまま文化財課に提出。

プリントしたものを至急、市町村に返送するので、写真の説明をつけて調査結果表と併せて提出。

※以上の記録類はすべて、調査後、文化財課に提出する。

※確認調査結果表・図面等の記録類は平成11年度刊行の「佐賀県農業基盤整備事業に係る文化財調査報告書18」の原稿に使用予定。

③ その他の手続き

(1) 掘削機借り上げ

1. 運搬等の効率上、地元業者3業者の見積合わせによる単価契約を行う。
2. 上記業者は、見積書を提出し、決定があれば所定の契約書2部を速やかに文化財課に提出する。（特に、会社等の代表者印の確認。）
3. 掘削機使用にあたっては、日時・場所等を事前に業者と充分打ち合わせ、かつ安全を期すること。調査終了後、速やかに掘削機の作業実績簿を文化財課に提出する。

(2) 調査依頼および旅費

文化財課が調査を依頼した市町村調査員については旅費を支給するので、次の書類を文化財課に提出されたい。

- ・確認調査承諾書
- ・旅費請求委任状
- ・就業確認書
- ・口座振替申出書

(3) 就労調書

1. 必ず所定の様式を使用する。
2. 調査後、作業員の押印、日数を早急に文化財課に提出する。
(10月下旬または11月下旬等に確認調査を実施した場合も、月末締めなので当該月末までに文化財課に必着とする。やむを得ず提出が遅れる場合は、FAXで送信も可。)
3. 市町村調査員が調査にあたる場合は、市町村教育長・担当者の証明印を必要とする。

(4) 賃金支払い

1. 発掘作業員の賃金は県から支給する。
2. 賃金支払い日は、翌月に日時を指定する。（概ね翌月の10日～15日）
3. 現金で支給するので、支払い場所、連絡担当者等についてあらかじめ決めておき、文化財課に連絡をする。
4. 賃金支払い当日は、就労調書と同一の印鑑で、領収の押印を行うので、発掘作業員には支払い場所・日時について十分周知させる。なお、支払い時には担当者の立会を必要とする。

3. 平成11年度農林業基盤整備事業等に係る文化財調査一覧表(第2回協議会資料)

市町村名	地区名	地名	事業名	工事量	主管課	通跡名	確認通跡面積(m ²)	本調査面積(m ²)	備考
佐賀市	金立東部		県営圃場整備	49.3ha	農村整備課	石土井遺跡、	6,750	()	
	兵庫北部		県営圃場整備	37.0ha	農村整備課	未周知、	4,570	()	
	鳥越		県営ため池等整備	0.5ha	農村整備課	帯隈山神籠石、	-	()	国史跡、レゾダ 一層表裏修繕
	幹線水路地水線		筑後川下流農業水利事業	600m	筑後川下流農業水利事務所	未周知、	0	0	
	嘉瀬排水路		国営総合農地防災事業	2,000m	佐賀中部農地防災事業所	未周知、	-	0	
	兵庫線		国営総合農地防災事業	2,000m	佐賀中部農地防災事業所	未周知、	-	0	
唐津市	管牟田(上場Ⅱ期)		県営畑地帯総合整備事業(区画整理)	6.9ha	農村整備課	未周知、	()	()	
	名場越(上場Ⅱ期)		県営畑地帯総合整備事業(用水)	900m	農村整備課	日ノ出松遺跡、	()	()	
	東山(上場Ⅲ期)		県営畑地帯総合整備事業(農道)	1,700m	農村整備課	東山Ⅱ遺跡、	400	()	
	唐津東部		県営中山間地域総合整備	16.3ha	農村計画課	桜崎遺跡ほか、	7,400	()	
鳥栖市	轟木・幸津		県営圃場整備	7.2ha	農村整備課	霞堤、	()	()	霞堤の本調査が必要
	鳥栖		県営かんがい排水事業(管水路)	0.2ha	農村整備課	未周知、	-	0	
	九千部山横断		広域基幹林道	800m	林政課	未周知、	-	0	
	神辺		県単林道開設	100m	林政課	未周知、	-	0	
多久市	ハツ溝		県営圃場整備	12.0ha	農村整備課	八ッ溝遺跡、	()	()	
	駄地		棚田地域緊急保全対策事業	5.0ha	農村整備課	未周知、	()	()	
	西山		ふるさと農道緊急整備	395m	農村整備課	未周知、	0	0	
	篠砂		ふるさと林道緊急整備	100m	林政課	未周知、	-	0	
伊万里市	山倉2期		農免農道整備	1,606m	林政課	未周知、	-	0	
	大野岳2期		農免農道整備	400m	農村整備課	未周知、	-	0	
	大野岳3期		農免農道整備	450m	農村整備課	未周知、	-	0	
	松浦2期		農免農道整備	400m	農村整備課	置ノ谷窯跡、	()	()	12月下旬確認 調査予定
	大川内		ふるさと農道緊急整備	560m	農村整備課	未周知、	0	0	
	煤屋		基盤整備促進事業	300m	農村整備課	未周知、	-	0	
	炭山		棚田地域等緊急整備	3.5ha	農村整備課	未周知、	-	0	
	滝野		普通林道事業	1,000m	林政課	未周知、	-	0	
	大川眉山		普通林道事業	350m	林政課	未周知、	-	0	
	大野岳		ふるさと林道緊急整備	400m	林政課	未周知、	-	0	
	山代		保安林管理道整備	300m	森林整備課	未周知、	-	0	
武雄市	杵島山		広域基幹林道	700m	林政課	南片白古墳群ほか、	-	0	現地踏査済
	柚ノ木原		ふるさと林道緊急整備	450m	林政課	未周知、	-	0	
	柏岳		生活環境保全林整備	4.0ha	森林整備課	未周知、	-	0	
大和町	三反田		ふるさと林道緊急整備	400m	林政課	熊ノ峰遺跡、	-	0	

市町村名	地区名	事業名	工事量	主管課	通跡名	確認通跡面積(m ²)	本調査面積(m ²)	備考
大和町	立物	国営水路 佐賀西部導水路	300 m	筑後川下流農業水利事務所	吉富遺跡、	0	0	
川副町	市の江川副幹線	国営総合農地防災事業 幹線水路	1,000 m	佐賀中部農地防災事業所	未周知、	-	0	
富士町	天山橋断	普通林道事業	400 m	林政課	未周知、	-	0	
	貝野～萱木	普通林道事業	80 m	林政課	舞野遺跡、	-	0	
	御民田	普通林道事業	600 m	林政課	未周知、	-	0	
	須田船石	水土保全緊急間伐	250 m	林政課	未周知、	-	0	
	藤瀬	林業地域総合整備	300 m	林政課	未周知、	-	0	
	中歌	森林空間総合整備	400 m	林政課	未周知、	()	()	
東吾振村	佐賀東部	県営かんがい排水事業	1,000 m	農村整備課	西前田遺跡、	400	()	
	九千部山橋断	広域基幹林道	300 m	林政課	未周知、	-	0	
	蛇岳橋断	広域基幹林道	473 m	林政課	未周知、	-	0	
吾振町	吾振	県営中山間地域総合整備	1,530 m	農村整備課	未周知、	-	0	
	蛇岳橋断	広域基幹林道	200 m	林政課	未周知、	-	0	
	川原田	普通林道事業	300 m	林政課	未周知、	-	0	
三瀬村	金山脊振	広域基幹林道	210 m	林政課	未周知、	-	0	
	田宇曾	普通林道事業	340 m	林政課	未周知、	-	0	
中原町	三養基	県営かんがい排水事業(揚水機場)	0.1 ha	農村整備課	西寒水七本柳遺跡、	()	0	確認調査で対応
	九千部山橋断	広域基幹林道(3-1工区)	400 m	林政課	未周知、	-	0	
上峰町	三養基	県営かんがい排水事業(揚水機場)	0.1 ha	農村整備課	未周知、	0	0	
	三養基	県営かんがい排水事業	0.1 ha	農村整備課	船石遺跡、	()	()	
神埼町	日出来	ふるさと農道緊急整備	700 m	農村整備課	利田柳遺跡、	3,000	()	
基山町	九千部山橋断	広域基幹林道	200 m	林政課	未周知、	-	0	
	鎌浦	県単林道	100 m	林政課	未周知、	-	0	
小城町	岩蔵	森林水環境総合整備	2.0 ha	森林整備課	未周知、	-	0	
三日月町	三日月北部	土地改良総合整備(農道・用水路・排水路)	7,200 m	農村整備課	佐織遺跡ほか、	()	()	
	立物・赤司	国営水路 佐賀西部導水路	1,000 m	筑後川下流農業水利事務所	赤司東遺跡ほか、	()	()	
	J R橋断	国営水路 佐賀西部導水路	500 m	筑後川下流農業水利事務所	未周知、	-	0	
	三日月2号排水路	国営総合農地防災	600 m	佐賀中部農地防災事業所	未周知、	-	0	
牛津町	牛津2号排水路	国営総合農地防災	300 m	佐賀中部農地防災事業所	未周知、	-	0	
浜玉町	ひれふり	畑地帯総合整備	32.0 ha	農村整備課	横田下古墳ほか、	0	0	
	今坂	農業生産体強化総合推進対策事業	10.0 ha	流通園芸課	未周知、	()	()	
七山村	荒川～天川線	広域基幹林道	230 m	林政課	未周知、	-	0	
	道太郎～蟹川線	普通林道事業	300 m	林政課	未周知、	-	0	

市町村名	地区名	事業名	事業名	工事量	主管課	進捗	跡名	確認踏面積(m ²)	本調査面積(m ²)	備考
七山村	袋底	保安林管理道整備	保安林管理道整備	150 m	森林整備課	未周知、	確認調査不要	-	0	
嶽木町	岩詰一栗ノ木	林業地域総合整備	林業地域総合整備	500 m	林政課	未周知、	確認調査不要	-	0	
	滝山	林業地域総合整備	林業地域総合整備	500 m	林政課	未周知、	確認調査不要	-	0	
相知町	陣の山	普通林道事業	普通林道事業	360 m	林政課	未周知、	確認調査不要	-	0	
	内浦	普通林道事業	普通林道事業	360 m	林政課	未周知、	確認調査不要	-	0	
	浅井谷	普通林道事業	普通林道事業	400 m	林政課	未周知、	工事立会	-	0	
	蔵野	地域防災対策総合治山	地域防災対策総合治山	0.2ha	森林整備課	未周知、	確認調査不要	-	0	
	平山	保安林管理道整備	保安林管理道整備	120 m	森林整備課	未周知、	確認調査不要	-	0	
西有田町	二の瀬	ふるさと農道緊急整備	ふるさと農道緊急整備	3,240 m	農村整備課	未周知、	確認調査済	0	0	
	西有田西部	県営中山間地域総合整備	県営中山間地域総合整備	20.4ha	農村整備課	未周知、	確認調査済	0	0	
	上ノ原	基盤整備促進事業	基盤整備促進事業	775 m	農村整備課	未周知、	現地踏査済	-	0	
	曲川	水資源地域緊急整備	水資源地域緊急整備	15.5ha	森林整備課	未周知、	現地踏査済	-	0	
山内町	神六山	水資源地域緊急整備	水資源地域緊急整備	9.0ha	森林整備課	未周知、	現地踏査済	-	0	
	黒髪山	生活環境保全林整備	生活環境保全林整備	7.0ha	森林整備課	未周知、	現地踏査済	-	0	
北方町	杵島北部	ふるさと農道緊急整備	ふるさと農道緊急整備	100 m	農村整備課	未周知、	要確認調査	()	()	
	杵島山	広域基幹林道	広域基幹林道	200 m	林政課	未周知、	確認調査不要	-	0	
大町	杵島北部	ふるさと農道緊急整備	ふるさと農道緊急整備	2,300 m	農村整備課	込堂遺跡、	要確認調査	()	()	
	栗岳	生活環境保全林整備	生活環境保全林整備	4.0ha	森林整備課	弁天遺跡ほか、	要確認調査	()	()	
太良町	一ノ瀬	県単作業道	県単作業道	320 m	林政課	未周知、	確認調査不要	-	0	
	柳谷	県単作業道	県単作業道	430 m	林政課	未周知、	要現地踏査	-	0	
	大野	集落水源山地整備	集落水源山地整備	30.0ha	森林整備課	未周知、	確認調査不要	-	0	
	糸岐	自然環境保全林整備	自然環境保全林整備	30.0ha	森林整備課	未周知、	確認調査不要	-	0	
塩田町	杵島山線	広域基幹林道	広域基幹林道	700 m	林政課	未周知、	確認調査不要	-	0	
	網野線	普通林道事業	普通林道事業	340 m	林政課	未周知、	確認調査不要	-	0	
	網野	地域防災対策総合治山	地域防災対策総合治山	0.1ha	森林整備課	未周知、	確認調査不要	-	0	
婿野町	権葉線	林業地域総合整備	林業地域総合整備	350 m	林政課	未周知、	要本調査	-	()	
	上不動	林業地域総合整備	林業地域総合整備	150 m	林政課	未周知、	確認調査不要	-	0	
有明町	杵島山線	広域基幹林道	広域基幹林道	200 m	林政課	未周知、	確認調査不要	-	0	
	南小坂田	同伐等森林整備促進緊急条件整備	同伐等森林整備促進緊急条件整備	90 m	林政課	未周知、	確認調査不要	-	0	
北波多村	志気前田	県営中山間地域総合整備	県営中山間地域総合整備	5.0ha	農村整備課	志気前田遺跡、	確認調査済	0	0	
	岸岳	県営中山間地域総合整備(遊歩道)	県営中山間地域総合整備(遊歩道)	2,000 m	農村整備課	岸岳遺跡、	確認調査済	()	()	佐賀県史跡 要図法変更要図
玄海町	大下場	基盤整備促進事業	基盤整備促進事業	12.0ha	農村整備課	未周知、	確認調査不要	-	0	
	浦山	基盤整備促進事業	基盤整備促進事業	12.0ha	農村整備課	未周知、	確認調査不要	-	0	

報 告 書 抄 録

ふりがな	さがけんのうぎょうきばんせいびじぎょうにかかるぶんかざいちょうさほうこくしょ							
書名	佐賀県農業基盤整備事業に係る文化財調査報告書 18							
シリーズ名	佐賀県文化財調査報告書							
シリーズ番号	第145集							
編集者名	古川直樹							
編集機関	佐賀県教育委員会							
所在地	〒840-8570 佐賀県佐賀市城内1-1-59 TEL. 0952(24)2111							
発行年月日	2000年3月31日							
ふりがな 所収遺跡名	ふりがな 所在地	コ ー ド 市町村	遺跡番号	北 緯 ° ' "	東 経 ° ' "	調 査 期 間	調査対象面積 (確認調査) ha	調査原因
さがけん 佐賀県 のうぎょうきばん 農業基盤 せいびじぎょう 整備事業 ちくない 地区内 いせき 遺跡	さがけんない 佐賀県内					19980401 ～ 19990331	430.8	農林業基盤 整備事業等
所収遺跡名	種 別	主な時代	主な遺構	主な遺物		特 記 事 項		
佐賀県 農業基盤 整備事業 地区内 遺跡	墳墓群 山城 石造物 ほか	旧石器時代 ～ 近 世	甕 棺 墓 曲 輪 包 含 層 仏 龕 ほか	土 器 陶 磁 器 瓦 ほか		確認調査報告のほかに、 平成10年度に農業基盤整 備事業に伴い実施された 8遺跡の調査概要を所収		

佐賀県文化財調査報告書第145集

佐賀県農業基盤整備事業に係る文化財調査報告書18

平成12年3月31日発行

編集・発行 佐賀県教育委員会

佐賀市城内一丁目1-59

TEL 0952 (24) 2111

印刷 大成写真製版所

佐賀市巨勢町大字牛島字一本松353

TEL 0952 (23) 1846
